

# BULLETIN Kyushu BRANCH

The Japan Institute of  
Architects Kyushu branch

# MAR.2023

九州で活躍する建築家のための情報誌

## Contents

支部長挨拶	P2	もよおし	P23-25
オピニオン	P3-6	デザインレビュー2023	P26-29
支部長漫遊記	P7-11	わざもん	P30
おしえて	P12-15	協力会つうしん	P31-32
とりせつ	P16-18	委員会報告	P33-36
トピックス	P19-20	地域会活動報告	P37-57
あのこと	P21-22	編集後記	P58

公益社団法人 日本建築家協会九州支部



## 支部長挨拶



松山 将勝（九州支部長）

桜の花も咲き日ごとに春の訪れを感じる季節となりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

早いもので来月の総会で4年目を迎える支部長の任期も、残すところ来年度の1年となりました。思い返せば、コロナ禍の最中に川津前支部長から引継ぎ、JIAの未来を見据えた事業計画を掲げ、新体制がスタートしたのが3年前になります。その間、さまざまな事業が延期や中止を余儀なくされる中、リモートでの活動を模索しながら事業を遂行して参りました。ただ、私が掲げた目標の成果には程遠く、昨年5月の総会で今年度から安全対策を講じた上で対面主体の活動に踏み込む事を宣言し、JIA活動にもようやく活気が戻って来た1年であったと実感している所です。全ての事業を何事もなく実行できましたのも、運営に携わっていただきました会員の皆様や関係者の皆様のご尽力の賜物と、この場を借りて深く感謝申し上げます。役員会の顔ぶれを見ますと、九州支部はこの3年で随分と世代交代が進んだ感があります。各地域会の会長や執行部にも次の世代の担う若手会員が多く登用され、中堅の私から見ても非常に頼もしく、九州ワンチームの絆が高まっている事を実感します。JIAに所属する事の価値を高め、次の世代に継承していく事が私の使命と考えておりますので、さらに一丸となってさまざまな事業にトライして参る所存です。引き続きご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

ここからは、九州支部の最近の出来事についてご報告致します。

来年2024年のJIA建築家大会（通称：全国大会）は九州支部主催で開催する事が決定致しました。2010年北九州市で開催された全国大会から、14年ぶりの九州開催となります。開催日や場所はまだ未定ですが、これから実行委員会を立上げ準備を進めて参ります。昨年の全国大会は沖縄で開催され、地域色豊かな素晴らしい大会でした。今年の11月には東海支部主催で、陶磁器産業の歴史が深い常滑市で開催されます。大会のテーマや企画についても、これから本格的な議論が始まりますので、会員の皆様からの忌憚のないご意見やご要望をお寄せ頂けたら幸いです。

3月11日、12日には、デザインレビュー2023が開催されました。今年も九州産業大学の会場をお借りし、本選に残った73作品の学生が全国から集結し、5人のクリティークと熱い議論が交わされました。今年から完全対面形式に戻った会場は大変な熱気に包まれ、これから社会に巣立っていく学生たちにとっては、糧のなる機会であったと思います。会場の提供から司会進行まで、多大なご支援を頂きました九州産業大学の矢作昌生先生（福岡地域会所属）に心から感謝を申し上げます。

先日の3月30日には、九州・沖縄の設計関連団体

（JIA、建築士会、建築士事務所協会、JSCA）の代表や幹事63名が参加し、九州・沖縄設計4団体懇談会が開催されました。一昨年にJIA主導で確立した九州・沖縄設計4団体災害ネットワークの連携と未曾有の災害対応についての再確認を行いました。また、省エネ法の改正に伴う気候風土適応住宅の九州各県の制定状況や今後の対応策についての協議も行われました。

沖縄県や宮崎県は独自の気候風土適応住宅の制定に向かっていますが、この制度の基本的な考えは日本の伝統構法を守る事が前提とされており現在、国が向かっている省エネ法の道筋は、九州においては過度な負担を強いられるものと危惧されています。九州支部ではこの問題を注視し、熊本地域会の古川保会員を座長としてLCA特別委員会を立上げ定期的に議論を交わしている所です。私も含めた委員会メンバーも熟知度が浅くまだ勉強会の状況ですが、この制度の中身について九州の建築家の認識が低く、危機感を抱いていない現状が問題視されています。端的に申せば、これまで私たちは九州ならではの風土性を読み込み住空間の開放性について考え生み出してきた建築が、これからは出来なくなる恐れがあるという事実です。

2050年カーボンニュートラルに向かって省エネ法はさらに強化され、九州の外皮性能も雪国と一律に課せられる基準に向かうと予測されています。これは九州の建築家にとっては近い将来、死活問題となってくるでしょう。JIA本部のホームページに「カーボンニュートラル連続セミナー」の動画が公開されています。第2期4回の古川保会員の講演会でこの問題の提言をされていますので、ぜひご覧頂ければと思います。

また、JIA本部のホームページがリニューアルされていますので、合わせてご覧ください。

コロナ禍で翻弄された日々も、5月8日には5類に引き下げられるとの事で、待ち望んでいた日常がようやく戻って来そうです。先日は福岡地域会の柳瀬真澄さんが主催する花見の会に参加させていただき、凄い数の群衆を見ながらその事を実感した次第です。これから宴席が増えていくのではと感じている所ですが、会員の皆様におかれましては、くれぐれも体調管理に留意していただき、元気にお過ごしください。

最後に、今年の九州支部通常総会は5月20日（土）に開催致します。総会後は、会員集会和懇親会も予定しておりますので、是非多くの会員の皆様にご出席を賜りますようお願い申し上げます。総会に先立って、会員の皆様には総会資料をお届け致しますので、議案の書面表決や委任状のご返送をいただきますよう重ねてお願い申し上げます。総会で皆様とお会いできる事を楽しみにしております。

## 全国大会にむけて

2010年10月北九州市を開催地とし、「海と森と建築」をテーマにJIA全国大会が行われた。九州で開催されるのは16年ぶり2回目のことだった。

九州支部全員でおもてなしを掲げ大会委員長に西岡弘元支部長、実行委員長は田島が務めた。2008年秋準備委員会を立ち上げ、開催地、日程、ゲスト講演者、収支などが検討された。開催地はハウステンボスのある佐世保市、都市機能がそろっている北九州市が机上に上がったが助成金の多さで北九州市に決まった。会場は北九州市国際会議場をメインに、基調講演は「九州共同体構想」テーマに熊本出身の姜尚中さんをお願いした。日程は10月7日から9日、登録670名（九州270名、全国400名）海外からの建築家47名を加えての開催だった。前年の大会開催地京都へ大挙して参加し、フグでおもてなしすると大見えを切ったキャンペーンを行い、さらに各支部で開催される総会へ担当者が直接勧誘に出向いた。そのかいあってか予定通りの参加者を迎えることができた。九州各地域会負担金や北九州市助成金、さらに全員で頑張っ て集めた企業協賛金や広告費などを加え収支はほぼうまくいった。予算は3200万円だった。

プログラムは多岐にわたった。シンポジウムは「環境都市を目ざして」をメインに5つのセクションが行われた。また公開審査に関しては新人賞、U-40など。その他谷口吉生さんの講演や菊竹清訓さんの図面展示など印象深いものとなった。

さて、この時の大会で楽しかったことはというと準



田島 正陽（福岡地域会）

備会議や実行委員会が幾度となく開催され、会議の後のお酒を飲みながらの会食だ。北福岡会のみんなの献身的なおもてなしには何度もお世話になり改めて感謝申し上げる。大会を成功させるために九州全域から集い、これほど長い時間を費やすことは親睦を深める最高の機会だった。大会後も親しくなったいい関係を保って現在に至る。やはりJIAは飲み会と議論の好きな建築家のサロンだと思う。当時JIA会長は芦原太郎さん、九州支部長は市川清貴さん。全国から集ったJIAのみんからあの時のフグは最高だった、最高のおもてなしだったとしばらく語り継がれ、次の大会支部にプレッシャーをかけてしまった。

参考のために1994年10月九州で最初に開催されたJIA大会94福岡はテーマを「地球をデザインする」とし、福岡サンパレスをメイン会場に735名の登録で予算は3000万円だった。JIA会長の鬼頭梓さんが大会委員長、大会実行委員長に松田順吉さん、大会テーマについての考察は西岡弘さんをお願いした。

そして2024年、またまた九州での全国大会が決まったようだ。準備は大変だがそれよりも楽しいことがたくさん待っている。準備に参加すればするほど思い出は大きく膨らみ友人も増える。

JIAの会員で良かったと、過去のことを学び、若い会員に伝えていってほしいと思う。

さあ九州で最高のおもてなしをみんなで考えよう。

## 師・磯崎 新を悼む



西岡 弘 (福岡地域会)

2022年12月暮も押し迫った29日の夜10時ごろ自宅の離れた所で携帯が鳴っていた。こんな時間に何だろうと不安に思いつつも急いで出たのだが間に合わず履歴でかけ直してみた。日本建築家協会の松山九州支部長の声で磯崎新さんが亡くなった旨の連絡だった。思わず絶句してしまった。世の中暮から正月に架けてのお祭り気分の長調の喧噪から、一気に短調の世界に突き落とされた気持ちだ。暮正月を挟む事から葬儀は親族で済ませ、日を改めてお別れ会的なものを東京で行うのでは等といろいろ考えていたが、次の日にアトリエからのメールで、長男の宙(ひろし)氏を喪主に、何年前に移り住んでいた沖縄で3日通夜4日告別式を行う事を知り、急ぎ飛行機とホテルの手配を済ませた。

11月末の沖縄での日本建築家協会全国大会の折、余り体調は優れない旨沖縄会員から聞いていたが、こんなに早く訃報が入るとは思いもよらなかった。原ミュージアム伊香保で行われた米寿のお祝いの時はお元気だったので、これなら白寿のお祝いまで大丈夫と思っていた。その時85歳になる私の方が何とか持ちこたえなければと念じていたくらいだった。現代医学によってもかなわぬ説明のつかぬ寿命というものがあるのだろうか残念でならない。

つい数日前に磯崎さん設計による博多駅前のシティ銀行本店(旧西日本相互銀行本店)解体について、大会のテーマだった「失われることによって見えてくるもの」と関連づけて書いた巻頭文が掲載されているJIAメール機関紙が届いたばかりで、ここで又、このテーマを否が応でも意識せざるを得ない事態となって

しまった。30日には早くも西日本新聞社会部の取材を受ける事になり、いずれにしてもどこかで追悼文は書く事になるだろうと心の準備を始めていた。アトリエ在職中も磯崎さんで通していたので文中も磯崎さんで書く事になっている。

磯崎さん自身コルビジエの信奉者である事を自認していたが、前川国男、坂倉順三、吉阪隆正といった直接の弟子より最もコルビジエを理解し生き方としても近かったのではないかと思っている。外国の作家と並んでも引けを取らない立派な体躯は、全体のスケールの取り方も大きく他の日本の建築家と違っていたように思う。それはしばしば工事費見積もり時点で苦勞する要因になった。つまり全体の容積が大きくなり躯体費に負担がかかってくるからだ。従って私が退職後さらに著名になり工事費が単価的に余裕の出してくる迄は、仕上げやディテールのないものが多い事に表れている。

それにしても人間は死すると随分小さくなるものと通夜の場で改めて拝顔して思った。そうでなくても尊敬し畏敬の念をもって接しより大柄に感じていただけに、小さな棺に納まっている事が不思議なくらいである。法隆寺の救世観音像は超人聖徳太子がモデルと言われるが、まさに建築にとどまらない知の巨人磯崎さんもその仏像のように柔和な表情で私には笑みを浮かべているように思えた。日本では尊敬の念をもって表現される翁の趣だった。在職中の事だが磯崎さんは仕事で怒ったりほめたりはしない。淡々とスケッチで手直しされる。たまに意にながって「うんよかろう」といった眼差しの記憶は今でも臉に焼き付いてい



る。未だに良くも悪くも夢に出てくる最も多い登場人物は磯崎さんである。以前に比べて優しい表情の場面が多くなっていた。

ヒンズー哲学で言うところの四住期の最後の遊行期を恙なく過ごし静かに沖縄の地のご自宅にて安らかに生涯を閉じられたとの事で、数え92歳の大往生であった。

在職中のエピソードを書きだしたら際限なく紙面を占拠してしまう。何を学んだかと問われると一つ一つ具体的に上げたらこれもきりが無い。建築に対する真摯な姿勢と抽象的に語るしかない。ストイックな迄建築にすべてをささげ建築以外に興味とか他に心が奪われるような事は何もなかったのではないか。内面の充実が建築に表れるとすると、それは日常のたゆまぬ鍛錬から生まれるのだろう。制作活動の過程であれ程の文章を書き著作を残した事がその鍛錬であったに違いない。

磯崎さん設計の建物は水戸の芸術会館以北では確かに存在しないのではないかと思います。日本では比較的太陽の明るい大分出身であり、コルビジエを信奉したのも頷ける。晩年沖縄に移住したのは明るい太陽を求めたのだろうか。歳を取ると暖かい方が住み易いなどという凡人的発想ではなく、夕日に近く、落日の浄土の荘厳さに日本人としての生命のリズムが沖縄を終の棲み処に選んだのではないか、今となっては知る由もない。

お前は死についての心構えができていないかと問われれば甚だ心もとない。老いる覚悟死ぬ覚悟と次第に進む中でなかなか自分の納得のいく死を迎える事は難しいのであろう。

知の巨人として哲学と宗教の凋落の中で常に建築における哲学的思考と制作を続けた禁欲の師の足元にも

及ばないが、少なくとも、巨人の影の片隅にいられた事をありがたく思っている。伝統、あるいは価値観と言ったものは親から子へとだけでは正しく客観的に伝わっていかない。年長者や師から受け継いでいく事が必要だろう。その意味でも私が磯崎さんから受けた恩恵は幾ら書いても書き足りない。

西欧生まれの進歩観や合理性を旗印にひたすら経済成長だけを目標に突っ走ってきたあげくの精神の荒廃の現実に対して、常に孤高の作家精神をもって立ち向かっていた。行政主導や組織事務所主導の建築の流れを鳥瞰し、沈着冷静な低い目線と志の高い目線の両面を持って対処していった。

私にとっていつも思考の基準が磯崎さんであった。例えばギーデオンの言う時間・空間・建築について磯崎さんはそこに終末・闇・廃墟を配当している。弔辞を読まれた伊東豊雄さん世代は想像するに未来・透明・建設ではないか。そしてこの世代から少し遅れた私は、継続・半透明あるいは白明・再生を原点に考えるべきではないかと考えている。

建築の設計という作業は様々な思考選択の補助線の重なり組み合わせの中から形態を浮き上がらせる作業であり、その補助線が近代の延長を超えて未来に向かって引かれているかが重要なのであろう。

安藤忠雄さんが磯崎さんへの想いを語っている中で、建築設計をしている人は誰もが思っていたらうと断わりつつ「この人についていけば間違いない」と思っていたと語っていたが、知的粉飾やてらいのない言葉ながらまさに至言で、私も理屈抜きでというか幾つでも理屈は述べられるが同じように思い、影の何歩も後ろをついてきた。

文化的英雄として既存の概念の解体者としてのトリックスター的存在、大分が生んだ吉四六さんや一休

禅師が、日本における過去の代表的トリックスターなら、磯崎さんは同じく大分が生んだ現代の世界的トリックスターと言えるかもしれない。

それは著書にもあるように「建築の解体」によって古いものを崩し新たな創造へとつながるように仕掛けを考える事、既存の惰性的慣用的社会と、新たな萌芽が垣間見える多様な世界との間を行きかい波乱や衝撃を巻き起こす事によって創造の糸口を示し、新たな建築シーンを世界に創るべく奔走してきたからだ。既存の単層的状況に多くの可能性を、身をもって示してきた胆力と知性を備えたコスモポリタン、建築界のスーパースターであった事は誰もが認めるところだろう。今の建築設計界の状況下では今後このような建築家は現れてこないのではないか。

まだ大学紛争がくすぶり休講続きの1年生の後半に、磯崎アトリエでアルバイトをする機会に恵まれ、以来スタッフとしての14年を加えると17年間の長きに渡って傍らにいらしていただいた。初めてお会いした磯崎さんから凡人の私に建築における知的探求の大事さを気付かせてくれた。高度成長景気の終わりとバブルの始まりの中間という曖昧な時代を、建築を学ぶ者として私は生きなければならなかった。安藤忠雄、伊東豊雄の「野武士の時代」の世代と、妹島和代66歳、隈研吾68歳の間世代、遅れてきたあるいは忘れられた野武士の時代と言えるかもしれない。

生涯の思想の源泉が思春期にあるとするなら、敗戦の焼け野原の廃墟が磯崎さんの源泉とすると、私は高度成長期の末期大阪万博という浮かれた時代を源泉とする不幸を背負った。幸か不幸か半年入院するほどの大病が万博視察もスルーすることになり、逆に万博病に侵されずに済み、かろうじて建築の世界に踏みとどまれたが、私のアトリエ同期世代で、建築に関係するも得体のしれない横文字の職業に就き、その後建築界

では鳴かず飛ばずになった者を何人も見ている。

磯崎さんの告別に立ち合う緊張感の中で、生きる事あるいは生きられる事の本質は、社会の多様性と変化に対応する柔軟なスタンスと共に、再度自身の心の内をしっかりと見つめ直す事が、集約化とグローバリズムに対抗し、優れて美しい建築とそれを取り囲む環境を作り出す事に不可欠であるという事を突き付けられた思いだ。人間如何に生き如何に死ぬかの作法を、身をもって示してくれたように思い最後まで師であった。

ここに掲載する写真は私が西日本総合展示場と万玉という懐石料理屋の両方の設計を担当し、小倉に現場監理で常駐していた時のものである。磯崎さんが50歳位の頃、私が36歳位ではなかったろうか。カウンター前には万玉の施主である故伊良原大將がいつものオールダーパーにレモン半分を絞った濃い特製水割り片手に立っていて談笑しているところである。

群馬の美術館を設計していた頃在籍していたアトリエ創成期に近い頃のスタッフは、秘書も含めてほとんど磯崎さんより先に逝ってしまっている。あの世でも手伝うスタッフは揃っているのだから、黄泉の国でも素晴らしい建築を指導してもらいたいと念ずるばかりである。

合掌



## 支部長漫遊記IN宮崎

2023年1月19日に第7回目となる支部長漫遊記をニューウェルシティ宮崎の2F会議室で宮崎地域会例会を兼ねて開催いたしました。

今回の開催時期については当初11月の予定で進めていきましたが、支部から推薦していただいた登壇予定者の皆様及び支部関係者の皆様との日程調整がなかなか折り合わず、かなり時期がずれ込んでの開催となりました。当日は福岡より4名（松山支部長、川津広報委員長、有吉広報副委員長、福田 福岡地域会会長）の皆様をお迎えし、地域会より8名、協力会員より5名の出席者でした。

また、登壇者については4名の方にご依頼していましたが、直前にご家族の方のコロナ感染等のアクシデントもあり最終的に2名の方に登壇いただくこととなりました。

登壇者は、株式会社石躍健志建築設計事務所 石躍健志様、渡辺祐樹建築設計事務所 渡辺祐樹様の2名です。

お二方とも宮崎市内を拠点に活動されています。このお二人にそれぞれの担当作品について取り組み等の発表をしていただきました。

### 松山支部長による挨拶及び趣旨説明

JIAは専門の設計者集団であり、建築に対して志を持った人間の集まりであります。

であれば、もっと建築に対して議論を深め、九州全体を底上げしていくような専門家集団の会合ができないかと思ひ、九州を回っているところです。宮崎県はその七番目の開催であり、残すところは佐賀県となっております。



久壽米木 和夫（宮崎地域会）

本日は会場が立派なホテルで少々緊張していますが、本当はイメージとしては少人数で居酒屋みたいなところで焼酎でも飲みながら激論をかわすみたいな方がいいのではないかと個人的には考えています。

本日はうちの元スタッフで渡辺祐樹にも発表してもらいます。

渡辺はまだ独立してばかりで地元に戻ってきて間もないものですから、まだ発表できる作品がございません。私の事務所での担当作品を発表してもらいたいと思っています。

石躍さんは10年ほど前でしたか、九州のみならず全国から確か30代を中心とした30人くらいの若手建築家が集まった「集い」というのがありましてそれ時、僕も呼ばれまして建築を議論しました。

当時そこにきていた無名だった方々が、今では関東などで活躍している方が多くて、あの会議はよくわからない会議でしたけれども、その時に石躍さんとお会いして若かったなあという印象が残っています。石躍さんもそれからキャリアを積まれて今日発表していただけるという機会を得たということになります。今日は登壇者が2名という事なので、時間もたっぷりありますので思う存分話していただければと思います。

また今日は、JIAの協力会員の方もお見えになっているということで、皆様には日頃からJIAの活動を支援いただきありがとうございます。

今後ともJIAの活動を支援していただければ有難く存じます。

今からお二方に作品を発表してもらいますが、それに対して皆で議論していこうという会ですから、畏ま



らずにいろんな意見を活発にディスカッションして建築って何ぞやという部分を掘り下げていければと思います。

以上、簡単ではありますが挨拶とさせていただきます。

### 石躍健志氏(株式会社石躍健志建築設計事務所)

本日は4物件発表させていただきます。

作品の発表を行うのは初めてですので、皆様の忌憚のない意見をお聞かせいただければ有難いと思います。よろしくお願いいたします。

#### ① 「喜名の家」(沖縄県読谷村)

沖縄での仕事という事でワクワクしていたのですが、実際の計画地は住宅の密集地にあり当初感じたリゾート…のイメージとは違うスタートとなりました。

オーナーの要望が「木造が経年とともに朽ちていくイメージがある」からそれで御願いたいということで主体構造は木造とした。

計画に際して心がけたのは、隣にオーナーの家があり圧迫感を与えない、また、台風(風)対策も考慮して建物を低く抑えること。併せて外に向かっては閉じる平面とし、外周廻りの壁に耐力壁をより多くとれるよう計画し、中庭を中心として一体感のある住宅になれば良いと設計しました。



「喜名の家」

#### ② 「アーナダ」(宮崎市青島)

宮崎市青島に建つカフェ+住宅です。喜名の家とほぼ

同時期に設計しました。喜名の家がコンパクトな中に大らかさが出せないかと考えていたのに対し、こちらは敷地等にも余裕があり大きな空間をどう具現化しようかと考えて設計に取り組みました。私が心地よいと考えている環境が、大きな屋根だけが掛かっていて、間仕切り壁のないような空間なので、そのようなものを目指しました。敷地に余裕があるこちらのケースでは、思い切って外と内がつながるような空間を作りたいと思いました。結果、建築面積の40%がテラスとなっています。

屋根は切妻とし天井裏を作らない断面として、空間として贅沢な使い方をしてみました。



「アーナダ」

#### ③ ブルコ(日南市南郷町)

オーナーからの要望は海に見える家にできないかとのことであったが、周辺の状況から検討し海、山どちらも見える建物にできないかと計画した。

敷地に対しての建物の配置として、セオリー通りに北に寄せ、南を空ける計画からスタートしたが、建物



「ブルコ」



として矩形、L型、曲面等へと変化してゆき、最終的に30°づつ振ったこの平面となった。

ちなみに「ブルコ」はイタリア語で「青虫」の意味である。オーナーにもこのネーミングを気に入っていて表札にいられていただいている。

#### ④ AKH11 (宮崎市)

宮崎の街並みを良くしたいと常々言っている建築好きのオーナーからの依頼で10棟目の物件になる共同住宅です。西側、南側ともに3階建ての共同住宅が隣接していて、一般的な共同住宅の配置計画、平面計画にするとどうしようもないと考え、中庭形式の平面としました。厄介だったのが3階以上の共同住宅の部分に必要な非常用侵入口の確保に苦労しました。宮崎ではほとんど無いようなスタイルの共同住宅であるため、銀行からも随分大丈夫ですかと念を押されたが、理解あるオーナーのお陰で乗り越えられました。竣工して以外だったのが、採光に関しては中庭形式なので当然1階が一番暗くなるのですが、1階から入居が決まってきました。

以上で私の作品発表を終わります。



「AKH11」

最後に、宮崎の大学には建築学科がありません。子供たちは県外の大学で建築を学び、そのまま県外へ就職します。宮崎で設計を生業としていいなあと思えるような建築を作り、あそこで働きたいと思ってもらえ

る場所としたい。本日、ここにいらっしゃる皆様とともに良い建築をつくっていただければと思います。

(松山支部長) 4作品を見せていただいて石躍さんの人柄、作風が、建築の嗜好として肌で感じる匂いみたいなものにたどり着きたいなあ…という要求みたいなものを凄く感じました。まず、喜名の家ですが沖縄っぽくしたいとかは意識しましたか。

(石躍氏) 沖縄の環境に適したものが実現できるかなあという事は意識しました

(松山支部長) 内地の建築家が沖縄に行って、沖縄っぽさを出すのは非常に難しいと思う。外観についてですが、僕自身はどうしても外に向かって開こう開こうとするんだけど、この作品は閉じてますよね。

(石躍氏) はい、隣はオーナーノ実家、すぐ近くにコンビニもあってロケーションも悪く、閉じる方向で計画しました。またそのことにより外周壁に耐力壁を多く取って台風対策としたかった。

(松山支部長) 次にアーナンダですが、今日の作品の中で僕はこれが一番良いと思った。沖縄でこの敷地条件だったら最高にいいでしょうね。

配置計画ですが、何故このようにしたのですか。

(石躍氏) 敷地北西部分に住宅専用の庭をとるためです。僕は敷地の利用計画(配置)、平面計画を先行して考えます。途中で全く考えない訳ではないのですが、立面などの外観は最後に考えるようにしています。

(松山支部長) 僕は断面から考えるほうだけど面白いなあと思いました。それと内部と外部の区分け、40%がテラスですよ。この内外の切り替えが魅力的です。屋根の色は白ですか、素地のままとかは考えませんでしたか。

(石躍氏) 過去に反射によるクレームを受けたことが

あり、それが怖く白にしました

**(松山支部長)** 僕だったらやっちゃいますけどね、わかりました。

**(松山支部長)** これは僕はあんまり好きじゃない。施主の意向が強烈に出た作品ですよ。石躍さんの中で達成感はありましたか。

**(石躍氏)** 凄く楽しくやれました。今までの自分にないものが出せたと思います

**(松山支部長)** 施主のスタイルに合わせていける。

**(石躍氏)** はい、自分のやり方はこうですからという進め方ではなく、僕は施主に合わせるスタイルです。

**(松山支部長)** それは大事なことです。専門家の間では評価が高くててもそういうのって意外と訴訟が多い。発注者の利益を守るのは大事なことです。

**(松山支部長)** 最後にAKHですが、これは喜名の家と一緒に閉じてますよね。敷地を読み込んでどうするかって考えると思うのですが、AKHってそんなに厳しい敷地ではないですよ、こんなに閉じないとダメなのですか。

**(石躍氏)** 南に開くのはないので東にバルコニーを設ける案などもスタディしたのですが、どうしてもどこかで見たようなスタイルなる。何か今までなかったような建築が作れないかなと考えた時に、ずっと中庭タイプの共同住宅というものを温めていて、どこかで表現できないかというのがありました。

**(松山支部長)** 多分これ福岡でもないですよ。中庭ってコストが掛かるじゃないですか、事業物件ですから収支が合わないとなかなか難しい。他にも何か苦労した点とかありましたか。

**(石躍氏)** かなり気をつけたのですが、中庭を介して上下左右で視線が干渉するんです。クライアントとも随分話し合ったのですが、今までにない新しい建築ということで理解していただきました。

**(松山支部長)** 視覚的に繋がるという事は大事だけれど賃貸だから干渉しない方がいいですよ。あえて干渉するならばコミュニティを創り出していく仕掛けとかは考えられないですかね。難しいでしょうけど中庭を介して外部につながっていくようなしくみ、そういう建築が、社会性を持ってくるようなものができればよかったかなと思います。

いろいろ話しましたがけど凄くいい建築を作っていらっしゃるんで、生意気を言えば何かもったいないなど、もっと社会に還元されていくようなものができればいいなと思いました。

#### 渡辺祐樹氏(渡辺祐樹建築設計事務所)

2021年3月に松山建築設計室を退職し、2021年4月に独立しました。まだ事務所としての作品が完成していませんので、本日は勤務時代に担当した物件を発表させていただきます。



「お倉浜kidsクリニック」

作品は宮崎県日向市に建つ小児科と調剤薬局です。

敷地は日向市中心部の国道沿いにあり、東はお倉が浜海水浴場、西は住宅エリア、3方を道に囲まれています。構造としては四隅の壁でねじれを抑えるRCの壁式構造として計画しました。

平面計画は建物外壁をゆるやかに湾曲させることで外部空間が広がって緑地帯が建築の内部へ引き込まれるような、内外の関連性を親密なものへと導くことができると考えました。

建物内部へのアプローチにある大きな軒下の空間を紹介して、一つのつながりで建物内部へ導くよう計画しました。この軒下空間は近所の子供たちの遊び場になっています。小児科は賑やかな国道沿いに配置し、待合の奥は自然光に包まれた絵本コーナーを設けました。

静かな住宅エリア側に幼児保育と調剤薬局を配置しました。幼児保育は可動間仕切りで仕切れるようにし、中央に診療スペースを設け医師一人での対応を可能としています。

最後に建物紹介動画を見せていただき作品発表を終了した。また、その後に行われた質疑応答では

Q：主体構造をコンクリート造とした理由は何ですか。

A：個人的にコンクリート造が好きなことが前提ですが、海が近い立地であるため、外回りは堅牢なイメージとしてコンクリート造とし、内部に木を多用し柔らかく、あたたかな構成となるようにしました。

Q：構造形式は何ですか。

A：壁式構造としています。

Q：大開口部分のガラスからの日射量がかなりあると思うが、光や熱処理の対策はどのようにしていますか。

A：電動ブラインドを設置し、外部にバランスよく植

栽をすることで対応しています…等々。渡辺氏にも丁寧に質問に答えていただき、松山支部長による作品の補足説明が行われ発表会は無事終了して懇親会の開催となった。

まとめ

私個人としては普段交流の無い地元の若手建築家の方の話を聞くことができました、懇親会は二次会まで参加しましたが皆様と親睦を深める良い機会になりました。第七回目となる今回、当初支部の方から宮崎で活躍する四名の建築家の方を紹介していただきました。私が存じ上げない方もいらっしゃり、地域会のメンバーの方々に協力していただきながらの出席予定者間の日程調整に苦労しました。二回の順延を経ての開催となったのですが、せっかく準備していただきながらもコロナにより直前での参加予定者の欠席等もあり最終的に2名での作品発表となったことが心残りではあります。

最後に、作品の発表をしていただいた石躍さん、渡辺さんに感謝申し上げます。

また、松山支部長を始めとする支部関係者の皆様、協力していただいた地域会メンバーの皆様へ改めて感謝申し上げます。



登壇者と松山支部長



## 設計に根拠を提供する・根拠のある設計を行う

福岡大学に着任するまで、筆者は岡田新一設計事務所に勤めていた。仕事の中で、自分の設計案に対して疑問を持つ関係者を納得させることができず、残念な気持ちになった経験がよくある。そのため、設計に説得性を持つ「根拠」があるかどうかは私の懸案事項となった。福岡大学に来てから、設計や研究においてつねにこの懸案事項を解決しようとした。具体的に言えば、できるだけ設計に「根拠」を提供する研究をし、そして「根拠」ある設計を行うことである。「根拠」ある設計を行うことは、いま設計業界に受け入れられつつあるEBD設計方法とも関係している。今回は、私の研究室で行った6つの研究、設計と実践をご紹介します。

### 1、物理・化学実験方法を用いた空間形状研究(注1)

環境対策を建築設計に取り入れることは21世紀の建築家にとって重要な能力の一つである。現在、風・光・熱環境に対応する設計方法はさまざまな建築で見られる。例えば、愛称「ガーキン」で親しまれている30セント・メリー・アックスの独特な円錐形状は、ノーマン・フォスターらがビル周辺の風環境への分析に基づいて設計したことで知られている。しかし、建築は

趙 翔 (福岡地域会)

福岡大学工学部 建築学科 教授



物理的環境のみならず、生物環境にも関係している。生活の中で多くの空間にカビが発生する現象がある。本研究は、空間を囲む要素である形状が生物現象と関係があるか、関係がある場合にはどの程度あるのかを明らかにするものがある。空間の形状が異なればカビの付着量も異なるという仮説に基づいて、化学的・物理的実験方法を使用した。実験では直角、斜角、円角という異なる形状の空間(図1-1)を用意し、比較できるように化学の力を借りて同様なカビを使った。同時に、空間内の温度、湿度、気流という物理的条件も同様に設定した。また、実験の信頼性を高めるために、用意した3つの異なる形状の空間で無機物の粉粒実験も行った。実験の結果から、生物(カビ)と無機物は異なる形状の空間における付着状態が似ていること(図1-2)、異なる形状の空間でのカビの付着量が違うことが分かった。直角での付着量が最も多く、円角が最も少なく(図1-3)、両者の差が約14倍も開いている。現在、空間におけるカビ対策として機械通風や化学洗浄剤を利用することが普通であるが、本研究の結果から分かるように、異なる形状の空間を選択すれば機械エネルギー、または化学洗浄剤を最大14倍も節

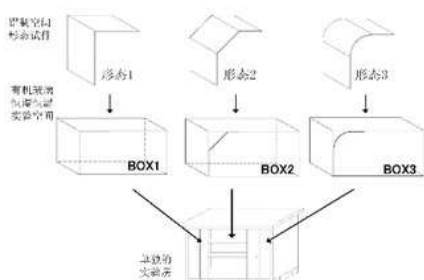


図1-1

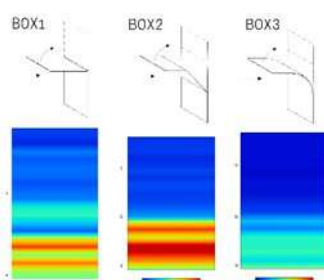


図1-2

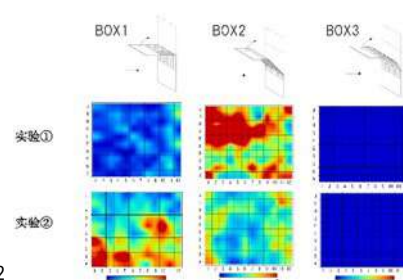


図1-3



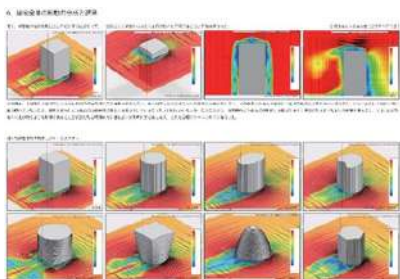


図2-1

約できる。本研究を通して、環境対策における空間の形状の重要性と効果が証明された。

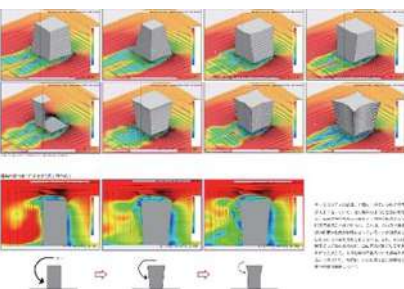


図2-2

## 2、コンピュータシミュレーションで建築形態を分析する研究と設計(注2)

建築をどのような

形態に設計するかは

建築家の腕の見せ所であり、最も頭を悩ますことでもある。現在は主に幾何学に基づく方法を使用する。幾何学が世界各地で通用するため、20世紀の建築物の形態には多かれ少な



図2-3 多かれ似通ったイメージ

を持ちやすい。建築の形態は所在地の影響を受けることが多いが、各敷地の気候、特に微気候の差異が大きい。本研究と設計は、敷地の気流（風）が建築形態に影響を与えるため、気流解析を通して新たな視覚効果を持つ建築形態が得られるという仮説を立てた。まず、建築物によく見られる直方体に対して気流解析を行った。その可視グラフ（分析結果）から分かるように、下層階と上層階ではビル表面部分での風の流れ方や風速が異なること、風下側のビル面に上方からの巻き込み風が吹くこと、その巻き込み風は上層階と下層階で風速に大きな違いがあること、ビル上面にはそれ

ほど強い風が吹いていないこと、風向と平行なビル表面には、風が吹き上げる現象が起きていることなどが明らかとなった（図2-1）。このことから、各方面のビル表面に吹き付ける風がなるべく均等になるようなビルの形態であること、ビル上面になるべく風が吹くような形態であることが自然換気の効果をより高められると考えられる。次に、さまざまな建築形態を想定したケーススタディをする。建築形態の違いによる吹き戻し風の変化というケーススタディの結果、上層に上げるにつれて平面が大きくなっていく、逆三角のような立面の形態が、鉛直方向の巻き込み風をより均等に低減させる形態であることが分かった。これは、ビルの上面端部の断面の角度が鋭角になっていることが効果的に働いているためだと考えられる（図2-2）。また、その効果をさらに高めるために、曲面的形態にして解析を行ったところ、より効果的であるという結果を得ることができた。以上及びその他の内容（ヴォイド）への気流シミュレーションから、仮説に基づいた斬新な視覚効果を有する上大下小の建築形態（図2-3）が得られた。この建築形態は、重力の影響で建築物は上小下大であるべきという私たちが抱く幾何学の概念を覆した。

## 3、人の軌跡(動線)と空間関係に関する研究(注3)

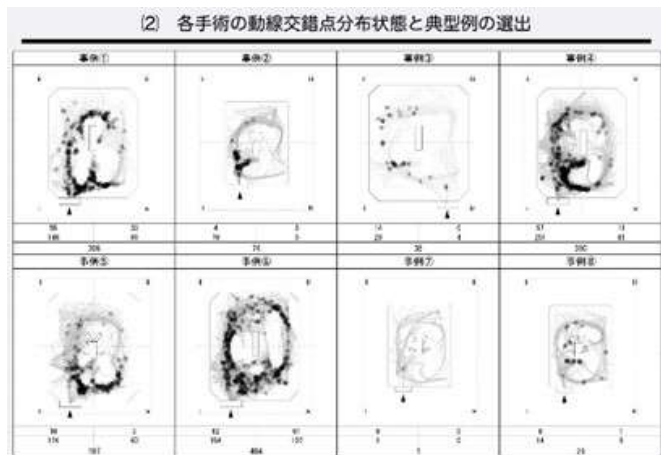


図3-1

人の移動は空間内物品の配置に影響し、物品の配置も人の移動に影響する。本研究は赤外線スキャナーを使って人の移動軌跡のデータと画像を取得し、医療スタッフが手術室での移動軌跡を明らかにし、現在の手術室空間計画の状態を評価するものである。研究では複数の代表的な手術（心臓バイパス手術、子宮摘出手術、肝葉切除手術、関節手術、胃切除手術、卵巣嚢腫摘出手術など）を測量した。可視化図形から分かるように、黒点はスタッフが接触しやすい箇所であること、その分布は対称的な状態でなく、ほぼ手術台の左下方に集中していること、各種疾病の手術中に医療スタッフの活動はそれぞれ特徴があること（図3-1）が明らかになった。この研究結果から、現在の手術室を手術室平面の中央に置く設計コンセプトは科学的ではなく、手術事故率を増加させる可能性があることが示唆された。病院における手術室、手術台の配置を、所在地域の患者構造に基づいて設計すべきである。設計は多様な状況を「平均」した結果ではないはずだが、現在の手術室設計と建築設計の発想にはこのような問題が多く存在している。建築の地域性、多様性を実現させるには、研究を通して潜在的な差異を見つけ、さらにそれに基づく空間対策で設計し建造すべきである。

4. 意匠に基づく建築材料に関する研究(注4)

世界に色彩がなければ、私たちは暗くて面白くない状態に陥ることになる。建築の色彩は材料と密接に関係している。イオ・ミン・ペイが設計したドイツ歴史博物館新棟における材料の視覚効果の巧みな運用は、本研究を行うきっかけである。この設計では、人に近い位置（低いところ）に大理石、人と離れている位置（高いところ）にコンクリートを使用した。全体的に

黄色大理石の効果——親しみやすい暖かさを人々に与えるが、コスト面では大きな差があり、建築の意匠に役立つ。本研究はコンクリートに対し、材

表4-1 試験体の色彩値測定結果

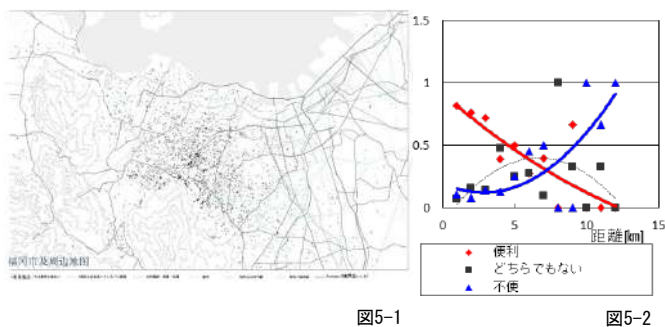
番号	試験体種別	1日色			1週間色			1ヶ月色		
		L*	a*	b*	L*	a*	b*	L*	a*	b*
001	基準試験体1	60.9	-0.7	3.0	61.9	-0.8	2.9	63.3	-0.8	2.9
002	基準試験体2	59.8	-0.7	3.0	60.9	-0.7	2.9	64.1	-0.8	2.9
003	基準試験体3	64.3	-0.6	3.5	67.1	-0.6	3.4	67.9	-0.7	3.3
004	水セメント比50% (白灰管)	62.2	-1.0	3.8	63.8	-1.1	3.5	64.0	-1.0	2.1
005	水セメント比50% (白灰管)	63.7	-0.6	3.6	64.2	-1.0	3.7	65.0	-0.9	3.0
006	水セメント比50% (白灰管)	64.2	-0.7	3.5	65.9	-0.8	3.4	66.8	-0.8	3.2
007	水セメント比55% (白灰管)	65.1	-0.7	3.5	66.3	-0.8	3.2	67.2	-0.8	3.0
008	水セメント比55% (白灰管)	61.1	-0.8	2.4	63.0	-0.9	2.2	64.0	-1.0	1.8
009	水セメント比55% (白灰管)	61.2	-0.8	2.0	62.1	-0.8	1.9	63.8	-0.9	1.5
010	水セメント比55% (白灰管)	66.1	-1.0	3.4	67.8	-1.0	3.1	68.3	-1.0	2.9
011	水セメント比55% (白灰管)	65.9	-0.9	3.7	67.5	-0.9	3.6	68.2	-0.9	3.4
012	水セメント比55% (白灰管)	61.1	-0.9	3.6	62.2	-0.8	3.5	63.5	-0.9	3.0
013	水セメント比55% (白灰管)	62.2	-0.8	3.2	64.8	-0.9	3.1	65.9	-0.9	2.6
014	人工乾燥用紙	67.0	-0.7	3.5	67.9	-0.8	3.2	68.6	-0.8	2.6
015	水セメント比55%	66.1	-0.9	3.6	68.8	-0.7	3.7	68.6	-0.6	3.7
016	水セメント比55%	61.1	-0.9	4.0	63.0	-0.9	3.6	63.0	-1.2	3.6
017	水セメント比55%	60.1	-0.9	2.1	62.8	-0.8	2.2	62.7	-0.8	2.2
018	水セメント比55%	59.1	-0.9	3.2	60.2	-1.1	3.2	61.0	-1.1	2.6
019	水セメント比55%	65.7	-0.9	3.2	67.1	-1.1	3.2	68.0	-1.1	2.4
020	水セメント比50%	57.3	-0.8	2.1	58.6	-1.2	2.2	58.6	-1.2	2.5
021	水セメント比50%	59.9	-0.9	2.6	62.9	-1.0	2.7	61.3	-1.2	2.9
022	水セメント比50%	63.3	-0.9	3.2	66.4	-0.9	2.9	67.1	-1.2	2.9
023	単位水量300g/m <sup>3</sup>	59.7	-0.7	3.3	62.2	-0.9	2.9	62.7	-0.9	2.6
024	単位水量300g/m <sup>3</sup>	59.5	-0.8	3.1	62.1	-0.9	2.8	63.3	-1.0	2.8
025	単位水量35%	63.9	-0.8	3.1	66.1	-0.9	3.1	67.3	-0.9	2.7
026	単位水量55%	63.8	-0.8	3.2	66.1	-0.9	2.9	67.2	-0.9	2.5
027	合成紙目(肉離着布)	65.1	-0.9	3.6	63.1	-1.0	3.2	62.3	-1.0	4.0
028	合成紙目	62.9	-0.8	3.2	68.2	-0.9	2.9	68.3	-0.9	2.7
029	荒い合板	58.3	-0.6	3.0	59.9	-0.7	2.6	59.8	-0.6	6.5
030	荒い合板	65.1	-0.7	4.1	66.4	-0.9	3.8	66.9	-0.9	3.8
031	標準的色目1	61.3	-0.7	6.2	63.8	-0.7	5.2	65.0	-0.9	3.0
032	打込温度10℃	60.8	-0.7	3.7	63.9	-0.7	3.2	63.9	-0.8	3.2
033	打込温度30℃	64.0	-0.8	2.4	66.0	-0.8	2.3	66.4	-1.0	2.6
034	水セメント比50%	62.1	-0.9	2.9	63.8	-0.8	2.6	63.2	-0.9	2.7
035	水セメント比50%	63.1	-0.9	1.3	66.1	-0.9	6.0	66.3	-1.0	1.4
036	風有り	58.6	-0.7	4.1	60.8	-0.9	3.9	61.8	-0.9	3.8
037	風有り	62.0	-0.8	3.5	64.8	-0.9	3.1	65.4	-0.8	3.4
	最大値	67.0	-0.6	7.6	68.8	-0.6	6.6	68.6	-0.6	6.5
	最小値	58.4	-1.0	1.4	58.2	-1.2	2.6	57.6	-1.1	1.9

L\*, a\*, b\*それぞれ別の色の最大値  
L\*, a\*, b\*それぞれ別の色の最小値

料、水などの配合比、打ち込み温度及び養生面の実験研究（試験体の色彩値測定結果）を行い（表4-1）、打放しコンクリートが色彩上のメカニズムを明らかにし、有益な初期結果が得られた。打放しコンクリートの色彩に関して、実建築物の調査とコンクリート試験体による実験を行い、設計者などが容易に理解できる以下の基礎的知見を把握した。①打放しコンクリートの実建築物において、仕上げの種類・施工状況などで、同一建物でもその色彩値に幅がある。②混和材の種類により明度に影響を及ぼす（高炉スラグ使用で明度が高く、シリカフェーム使用で明度が低い）。③混和剤の種類・割合により明度に影響を及ぼす（ポリカルボン酸系使用で明度が高く、混和剤無しで明度が低い）。④養生時の風の有無が明度に影響を及ぼす（風無しと比較し、風有りのほうが明度が低い）。⑤型枠合板の種類が、明度・彩度（黄み）に影響を及ぼす（型枠の使用回数を増やすと明度が高くなる。荒い合板使用で明度が低く黄みが強い。剥離剤使用で明度が低く黄みが強い）。⑥水セメント比が明度に影響を及ぼす（水セメント比が小さいほど明度が低い）。

## 5、実際の設計プロジェクトを対象とした研究(注5)

実際の設計プロジェクトに参加させることは、学生たちにとって多くのメリットがある。筆者が携わった福岡大学のキャンパス計画、特に病院エリアの計画及び病院の新築建築計画は学生たちに可能性を与えた。病院建築の位置は来院患者数や医療サービスの範囲に影響を与えるため、医療圏と関係している。本研究はボロノイ法と来院患者ビッグデータの方法を結びつけて(図5-1)、福岡大学病院医療圏の範囲(図5-2)を明確に算出し、新築建築の計画に参考情報を提供した。



## 6、モノづくりの国際コンペの参加(注6)

実際の設計を行い、同業者と競い合い、さらに専門家の講評を聞くことは、学生の知力、能力、体力及び心力を鍛えるのに役立つ。TOKYO DESIGNERS WEEKはこのチャンスを提供してくれた。その国際コンペに参加した500以上の作品が世界から東京に集まり、趙研究室の学生たちは10作品(図6-1・図6-2)を出展した。この10点の作品は、「ストリートファニチャー」という競技テーマに基づいて制作され、今でも実際に使われている。ストリートファニチャーと室内の家具は、人に使用されるという目的が同じであるため、スケールの的には共通性を持っている。しかし、ストリートファニチャーは屋外に設置され、しかもその多くが公共的な場所にあるため、人に与える感覚メカニズムは



図6-1



図6-2

室内の家具と異なる。学生たちは造形やディテールより、輪郭と体積・表層の関係性を優先的に考慮した。公共的場所にはだいたい具体的な関係を持たない人たちが集まる

ため、ストリートファニチャーはその人たちにコミュニケーションのきっかけ——言葉であれ使い方であれ——を提供することも関心ポイントだった。入賞した作品「Feeling box」(図6-1)は、家具と言葉の結びつきを試みたデザインだった。

参考文献：

注1 上利沙矢香：空間の形態と物理環境に関する研究 異なる空間形状とカビ付着状態の関係性に関する実験的研究. 福岡大学工学部建築学科卒業論文 平成21年

注2 葉師寺智也：環境共生型の建築を目指して～気流の分析と形態操作による設計手法の提案～. 福岡大学大学院建設工学科修士設計 平成24年

注3 幸康史：大病院手術室における医療スタッフの動線に関する研究. 福岡大学大学院建設工学科修士論文 平成20年

注4 趙翔 松永一郎 本田悟 土屋潤：建築計画と設計における材料の質・効果に関する実験的研究—打放しコンクリートの色彩の実態調査と制御に関する実験. 日本建築学会技術報告集 第47号 pp285～290 平成29年

注5 久保田博恵：行動選択に関する研究——X病院の利用者分布と交通構造について. 福岡大学工学部建築学科卒業論文 平成16年

注6 趙翔 等：店舗施設の仕事 建築・インテリア作品集. ARTBOX pp128～129 平成27年



## JIA国際委員会への参加



水本 浩二（鹿児島地域会）

います。

### ■JIAの国際交流活動

JIA活動の重要な柱の一つが、建築界を代表して国際活動を行うことと位置付けられています。JIAに所属する建築家個人や各支部・地域会は全国に連携、情報交換を行っていますが、同時にUIAなど国際組織へも参加、地球規模の建築家ネットワークを構築しています。九州支部においてもこれまで地域会毎に様々な国際交流活動が行われ、従来の国際交流活動が困難であったコロナ禍の期間においても北福岡地域会による日韓合同学生ワークショップの開催や鹿児島地域会による全羅北道建築士会（韓国）との作品展示パネルの交換など、継続的に取り組まれている事業もあることは、JIAのあり方として大変有意義な活動となっています。

### ■JIA国際委員会

JIA本部委員会の中には主にJIAの国際活動を取り扱う国際委員会があり、九州支部からも委員が任命されています。

私も2022年6月より九州支部から委員として参加しています。委員会構成メンバーは関東甲信越をはじめ、北海道、東北、東海、沖縄の各支部からも任命されており、会議は原則としてリモートのWEB会議形式で開催されています。

国際委員会では、JIAが加盟している国際団体（UIA＝国際建築家連合、ARCASIA＝アジア建築家評議会）のコンベンションや国際会議への理事・委員の派遣、正式に提携している4つの建築家団体（AIA＝アメリカ建築家協会、ASA＝タイ王立建築家協会、KIA＝韓国建築家協会、KIRA＝大韓建築士協会）を中心とした海外建築家団体との情報や人の交流を積極的に展開して

### ■活動内容

2022年度に国際委員会でも取り扱い、参加した主な対面型国際活動を開催順に紹介します。

#### 【1】UIA国際フォーラム（5/18～20）

マドリッドで開催されたUIA総会。JIAから国際委員長、前国際委員長、委員1名が参加。

#### 【2】AIA大会（6/22～25）

シカゴで開催されたAIA大会。JIAからJIA会長（6月時点）、国際委員長、委員1名が参加。

#### 【3】ARCASIAフォーラム（9/4～9）

隔年で開催されるARCASIAの年次大会。

モンゴル・ウランバートルで開催され、JIAからJIA会長、国際委員長、委員他4名が参加。

#### 【4】EAST-EAST5（9/23～26）

欧州の東にあるリトアニア建築家協会とアジアの東にあるJIA共催による両国の建築家と建築学生の交流イベントの第5回。リトアニア・カウナスで開催され、両国の建築家と建築学生による展覧会、学生ワークショップ、公開フォーラムにJIAの若手建築家、建築学生、基調講演者合わせて23名が参加。日本でのプレイベントや報告会も開催。

#### 【5】JIA建築家大会2022沖縄IPF（10/20～22）

JIA建築家大会で行われる国際会長会議。AIA、ASA、KIRA、KIAの会長を招いて会議や発表を行う国際交流イベントであり、海外ゲストは同伴者も含め13名が参加。



**【6】 KIA大会（11/8～13）**

韓国・大邱で開催されたKIA大会。JIAからJIA会長が参加。

**【7】 ゴールデンキューブ賞（11/4・1/21）**

子ども向けの建築・まちづくりの教育活動ならびに教材を広く公募、表彰する顕彰事業。UIAが主催するUIAゴールデンキューブ賞国際審査への日本推薦作品選考をかねており、JIA 国際委員会が JIA 東海支部に事業委託をする形で実施。

**■ IPF準備**

JIA建築家大会2022沖縄での国際会長会議：IPF (International Presidents' Forum)において、私も国際委員会担当チームの一員として準備段階から参加しました。国際委員会の準備チームは総括の委員長、現地サポートの沖縄支部委員、接遇担当委員が2名、運営・設営担当の私、事務局の合計6名で構成され、7月から準備に取り掛かり、オンラインによる1時間程度のミーティングを10回程度行いました。

JIA建築家大会は2019年の弘前大会以来の開催であったため、企画や運営に関しては前例の確認が少ない中で手探りの準備になり、以下の内容について検討されました。

**フォーラムの構成**

沖縄大会のメインテーマ「首里城の輪郭 ～失われたことでみえてくるもの～」に沿った構成を考え、「保存・再生」をフォーラムのテーマとし、国内外ゲスト建築家の事例プレゼンテーションと提携建築家協会代表によるパネルディスカッションの二部構成としました。

**ゲスト、登壇者の選定**

海外提携建築家協会の代表は例年招待することが決まっていますが、今回テーマの「保存・再生」につい

てプレゼンテーションをしていただく海外ゲストについては、UIAやARCASIAといった加盟団体への適任者の照会や、これまでの対面交流で築いたネットワークから選定、国内からも2組ご登壇頂きました。

**会場内のレイアウト**

会場は沖縄支部の大会準備委員会で手配されているため、会場内のステージや座席配置について検討しました。

既設会場は舞台に対して奥行の深い平面形でしたが、登壇者と聴講者との距離的な一体感を確保できるよう、既設舞台を使用せず、会場長辺方向の中央に仮設ステージを配置し扇状に座席50席程度を設営しました。

**情報発信やアーカイブの方法**

本イベントは英語で行われることや他の会議やイベントと並行して行われることから例年の参加者はJIAの国際活動に関係する会員に限定される傾向があったため、今回は同時通訳を導入し会場での対面形式およびリモートにより日英両言語で聴講できる仕組みを導入しました。

配信方法はZoomやTeamsといったWEB会議アプリでの配信も考えられましたが、どなたでも使いやすく、海外発信での安定感を考慮し、YouTubeLiveによるインターネット配信を採用しました。

また、動画をJIAでアーカイブ化しCPD認定プログラムとして登録しています。これらは初の試みですが、JIAの国際活動の活性化のために今後も継続していきたいと考えています。

**ゲストの接遇**

JIA大会開催地へ到着する海外ゲストの送迎や、期間中の会場移動、食事、通訳やツアーの同行を接遇担当や国際委員が中心に対応します。移動手段（バス、タクシー）の手配や各会場での動線想定、食事の内容等、

事前検討はいくらでもありますが、経験豊富な先輩方や接遇担当委員が段取りよく決めて下さいました。

国内でも人気の観光地である沖縄では、移動手段の手配がかなり困難であった事が印象に残っています。

### ■IPF当日

JIA沖縄大会IPF当日の朝、前夜遅く現地入りしていた私はこの段階で初めて担当チームのメンバーと合流します。3ヶ月近くオンラインミーティングを重ねてからの初リアル対面は中々に面白い感じです。

その後会場入りして、設営状況や機材・受付方法等をチェックし午後からのIPF本番に備えました。

IPF前半のプレゼンテーションでは、海外ゲストの方々が普段取り組まれている保存・再生活動への並々ならぬ思いが溢れ出て、事前にお約束した持ち時間を大幅に超過してしまうなど、国際的なイベントあるあるも体験でき、後半のパネルディスカッションも含め充実したIPFとなりました。

地元沖縄の建築士会会員の皆様をはじめ、フォーラムの映像配信・アーカイブ、同時通訳、会場設営作業等で協力を依頼したイベント会社の(株)ヒラヤマ様のサポートもあり、無事にフォーラムを開催できました。ご協力いただいた皆様に感謝しております。

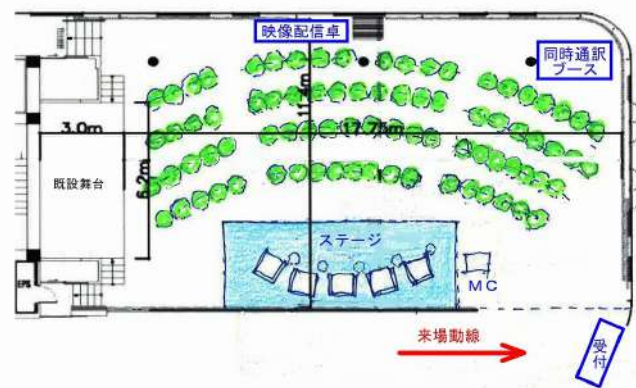
### ■JIA大会期間中の対応など

大会に参加する海外ゲストの接遇はJIA会長をはじめ、国際委員会新旧メンバーの大事な役割です。

会場での案内や移動、ツアーでの通訳や解説、レセプションやウェルカムパーティーでのコミュニケーションなど、できる限りのおもてなしに努めるのですが、日本語さえも怪しい私も拙い英語でコミュニケーションを試みます。語学力不足が原因で国際問題に発展しないよう注意を配りながら、と思いつつ結局は、考えるより感じたままに海外ゲストの皆様とも交流を図ることができました。

2023年以降はここ数年中断されていた国際交流が復活したり、新しい交流も増えてくるのが容易に想像できます。国外の建築家個人としての考え方やその国・地域ならではの事情といった、コンテンツを読んだり視聴するだけでは掴みきれない情報の共有や共感など、国際交流で得られるものは、私たちの思考の間口や奥行きを拓けてくれるものになると感じています。

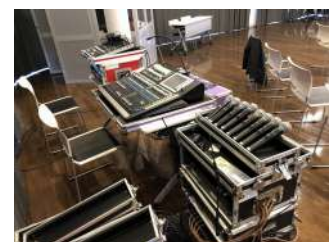
会員の皆様におかれてもより広くより積極的に国際交流にご参加いただければ幸いです。



会場レイアウト



同時通訳ブース



映像配信車



開催状況

## 対馬の昔と現在

対馬をはじめとする長崎県の離島地域の多くは、対馬⇄上五島、対馬⇄島原など直線距離で250 kmも離れている。九州本土で北九州から鹿児島まで350 km位であるから、かなりの広範囲と言える。JIAの会員は五島を除く各地域で活動し



ているが、地理的要因もあり離島会員の交流はなかなか難しい状況である。他県も含め離島間で多くの交流・情報交換ができればと感じている。

私が活動している対馬は、南北に70 km、東西20 kmで細長い島だ。南北の道路整備が整うまでは島内のつながりも難しかったのか、北の玄関口比田勝は小倉・下関、南の玄関口厳原は博多と船でつながっていた。長崎県でありながら古くから経済圏は福岡地域であった。現在は島南北から船舶が博多港へ、航空機が長崎・福岡へ運航されている。

かつては対馬南北の繋がりが難しかったと書いたが、100年以上前に建てられた上島、下島の建築物には共通の特徴がある。複数の論文に記載されている長方形の柱で「平柱」と呼ばれているものだ。上島の佐護・瀬田地区にある古民家と下島の椎根地区の石屋根倉庫にその特徴がある。平柱の大きさは、450×300程度で、古民家の柱は桧・檜、石屋根倉庫の柱は椎を利用している。島内南北の交流が難しかった時期にも、職人の交流があったのだろうか。下部の古民家の写真で柱と壁板に少し光沢があるのが解るだろうか、これは木蠟（きろう）で磨かれている。毎年一家総出で柱などを磨いていたそうである。この木蠟（原料はハゼノキ）は、島原藩の時代に島原半島の特産品

### 鼻崎 象三（長崎地域会）



として製造されていたそうである。対馬ではハゼノキを栽培しているのを聞いたことがないので、島原から対馬へ木蠟が流通していたのかもしれない。そういえば島原と対馬には同じ名前の郷土料理がある。「ろくべえ」だ。どちらもサツマイモが原料の麺料理である。やはり島原と対馬は何らかのつながりがあったのかもしれない。



■（上島）佐護地区の古民家の内部



■（下島）椎根の石屋根

前述した「平柱」を内装に使用している飲食店・物産店「よりあい処つしま」が福岡市にある。対馬市が企画運営しているものだ。2014年に博多駅近くに、2020年に博多港近くに移転オープンした。上



島の古民家を解体し木造のフレームを内装材として再利用している。福岡に行かれる機会があれば是非お立ち寄り頂きたい。



外観 内観  
2014年オープン（既に解体された）



外観 内観  
2020年オープン

さて対馬の現在、人口は28,000人、64年前は70,000人であった。高齢化も進み40%は高齢者だ。私の周囲でも「高齢でもう仕事やめた」という話題も増えた。昭和40年以降に建てられた建築物も老朽化で、解体・改修・建替等多くの工事がここ数年続いている。私も年間30から40物件をベルトコンベアーが流れていくようにこなしている。対馬だけではなく他の地域でも同じような状況であろうか。

人口が減れば建築の担い手も減る、当たり前の話ではあるが、これが一番の問題だ。経営者は仕事を取りたくても取れない、働く人がいないのだ。型枠、鉄筋、大工、左官などほとんどの職人さんが減った。また、土木工事（陸・海）と建築工事を比較すると経費率・利益率は建築工事の方がかなり低い。私の知人も「建築はもうからんけん撤退した」という方が何人もいる。

今年度の対馬市の入札も何度となく応札者なしが続いた。数億円規模の物件から数百万円規模の物件まで全ての物件である。来年度前半も私の知る限り数十件

の入札がありそうだが、前半は応札者が現れないだろう。建築ラッシュというよりは、職人ロスが主因のような気がする。また国・県・市は、それぞれが何の調整もせず発注しているが、垣根を超えた話し合いで発注調整する事を視野に入れてほしいと最近感じている。

私は建築関係の他の団体にも所属しているが、その団体の対馬の会員数は20名弱。数年後の年齢構成は約70%が60歳を超える、超高齢の団体支部になる。おそらく団体支部としては機能しなくなると思う（もうしていないか）。

連日メディアでは「異次元の少子化対策」「危機的出生率」などと報じている。各離島の行政は少子化対策や移住促進など努力はしているのだろうが、日本全体の人口が減少している現状で離島の人口が増えるとは考え辛い。かなり以前から言われてきてはいるが、定住人口増加はすでに限界が見えており、交流人口の増加にもっと目を向けるべきではないのか。観光交流促進には観光公害など様々な問題もあるが、コロナ後の観光も始まっている。すでに3月から韓国人観光客の対馬への渡航も再開し始めた。ただ外国人観光客頼みだけでなく、交流人口の増加を広い範囲で考えていくべきだろう。

10年後には対馬の人口は2万人になるというデータもある。2万人の島づくり、2万人で生きていける島を考えていくべきでは無いのだろうか。

私は来年独立後30年になり、年齢も60歳になる。近年は若干雇用しているが、ほとんど1人で活動してきた。残念ながら後継者も育てる事ができていない。この事は多少責任を感じている。対馬には現在私を含め主に2社が設計活動しているが、私の活動期間もそう長くはないだろう。このままでは将来対馬から設計事務所が無くなる時が来るのかもしれない。そうならないよう対馬で最後に何ができるか考えながら活動していこうと思う。また離島含め同様の悩みを抱えている方々と交流したいと願ってやまない。



## 記憶に残る体験交流会（2004年6月）



河野 秀親（宮崎地域会）

2004年度より地域会代表を引き受けることになりましたのでこれまで経験したことのないような交流事業がしたいと思いました。これまでに行われたほとんどが市街地のホテルや居酒屋などを会場にした交流会でした。まず考えたことは宮崎ではできないようなことはなんだろうか？

我が街の串間市は野生馬の都井岬、幸島の野生猿などの自然豊かな観光資源や海がありゴルフ場があり温泉がある。これらの資源を活かして何かできないだろうか？と思い都市部では体験できない自然を活かした事業をしよう！と思いました。そして心に残る体験型の交流会を企画することに～

JIAと地域との交流が深まるようにするために賛助会員、地元建築士会、地元の家づくりの会などにも呼びかけ多くの人が同時に楽しめるよう2つのコースを企画する。ゴルフ好きにはゴルフ大会、ゴルフができない人には磯釣りを楽しんで頂く事業としました。

初めての磯釣りでも釣り道具、餌の手配、釣り指導など釣りの専門家をお願いして頂き気軽に楽しむことができる企画。また、釣り場はそれぞれのポイントまで瀬渡しする。急用が入っても止めて帰ることもできないのです。要するに迎えの船が到着するまでどっぴり釣りにハマるしかない磯釣りとなったのです。



私たちは様々な業務があり常に時間に終わられ束縛されているのではないのでしょうか？このような自然の中で仕事を忘れ楽しめたことは大変有意義な体験交流会になったのではと思っています。

スケジュールとしてはゴルフ、磯釣り共に10時ス

タート。終了はどちらも4時頃になるため終了後は温泉で汗を流しその後の親睦会へと流れるため皆さん満足できる体験交流会となったのではないのでしょうか。

親睦会は「くしま温泉いこいの里」にて開催。磯釣りでゲットした魚や地元の新鮮な魚介類などのBBQを楽しみました。通常はゴルフの成績発表に終始するのだが今回は磯釣りの成果発表も加わり自慢話や失敗談など大いに盛り上がりました。また、どちらにも参加できないメンバーや地元の協力で親睦会の準備を手伝って頂きましたので会員、賛助会、地元と一緒に楽

しむ事業となったので大変良かったと思いました。

思い返すと今から約20年前の出来事になりますが参加されたメンバーもその時の体験は大変思い出深い記憶となっているようです。今、思い出の写真を振り返ると皆さん若かったなあ～と思います。写真は懐かしい思い出の写真です。健康に気をつけて今後のご活躍を祈念します。ありがとうございました。





## 子どもエキスポ in 壱岐



松本 隆之（長崎地域会）

### はじめに

平成30年に建築基準法第21条が大幅に改正され、昭和34年に発令された事実上の木造禁止令の制限から完全に解き放たれました。それから6年余りが経過しましたが、非住宅分野、特に中高層建築においては国が期待していた程の木造建築の普及には至っていない状況です。

現在、国内において完成した、いわゆる純木構造のビルは11階、地上44mに達し、2025年には17階建70mのビルが東京の新橋に出現します。これらのビルは木造には違いなく、数千立米の木材を使用し、何千トンもの炭素貯蔵を可能とします。しかしながら公開された情報によると、建築坪単価は数百万円に上り、国内トップクラスの大企業の広告塔ビルとしては良いのかも知れませんが、そのままこれが全国に普及するとは考えにくいと思われま

### 睦モクヨンビル誕生の背景

先に基準法第21条の改正について触れましたが、そのきっかけとなったのは、紛れもなく地球規模の環境変動に端を発する各国のCO2削減目標値です。我が国が、2030年46%削減を達成するためには、建築産業分野における大幅な脱炭素貢献の数値化は必須です。様々な脱炭素指標のうち、LCAの概念は、建築施工や運用期におけるCO2削減数値のみならず、その建築を構成する材料生成に要した消費エネルギーやCO2発生量、建築の廃棄に至るまでの環境貢献度を総体的に評価するものです。私は高いレベルで環境貢献できる木造建築にはLCAの理念が必要だと常々考えてきました。LCA評価を高めるためには木材をできる限り原木に近い状態で使用し、地産地消によるエネルギー消費の少ない建築生産体系を生み出すことが理想です。

そこで私の建築活動拠点である‘壱岐の島’でできる脱炭素社会貢献に繋がる建築行為を考えました。このとき直感的に「法21条第1項但し書き」を最大限に活かした、誰も作ったことのない木造空間を作りたいと思いました。それは、16m未満、4階建以下の木造建築で建物の最高高さと同じ周辺空地を敷地境界内に確保できれば「その他建築」として建築可能となる緩和規定を空間化することです。思い立ってから1ヶ月後には基本プランが固まり、6ヶ月後に建築確認申請許可を取得しました。

### 睦モクヨンビルとは

睦モクヨンビルは、土台、柱、梁の躯体が全て一般製材のみで構成された、木造4階建建築物です。大きな特徴は、1階から4階すべての構造躯体があらわしの内部意匠を実現しており、4層吹き抜け内部空間を有する日本初の木造建築



睦モクヨンビル外観

です。また、1階から4階までのスケルトン階段をCLT材のみで構成しており、これも日本初の試みとなっています。

躯体にはJAS機械等級材79.9m<sup>3</sup>、CLT材を7.6m<sup>3</sup>使用し、全木材使用量は104.5m<sup>3</sup>、炭素貯蔵量は72.5tと算出されます。モクヨンビルは規模が小さい建築で、数値的には大規模ビルとは比較になりませんが、特筆すべき点は、階段に使用したCLTと耐力合板以外は全て無垢材であり、部材の生成エネルギー

ギーが小さく、原木から建築使用材としての歩留まりが良いこと、解体する時が来ても2次利用やバイオマス化し易いという点で、真に環境に配慮した木造建築だという事です。

そのほか、外装仕上げ材に採用した「ケイミュー株式会社のSOLIDOtypeM-LAP」としては日本最高高さの施工実績となること、すべてのフロアで用途の異なる空間が吹き抜けを介して混在する木造4階建て雑居ビルというのも珍しい特徴です。

### 睦モクヨンビルと脱炭素活動

現場施工が始まると同時に、様々な方面からの問合せが増加していきます。最初に興味を持っていただいたのは林政分野の方々、その波及効果で建築設計、施工分野へと情報は拡散していきます。

それと同時に自らを発信源としてSDGsに関わる活動を行ってきました。その一つが「子どもエキスポin壱岐」です。壱岐市は国からSDGs 政令未来都市の指定を受けていることから、エネルギーや食糧の自給自足、海洋環境などを主に様々な活動が行われています。モクヨンビルはSDGs 17の目標のうち8つに貢献することができることを、子どもエキスポを通じて子供たちに伝えました。

その他、これまでの脱炭素活動としてクラウドファンディングによる情報発信、長崎県林政課・長崎県建築士事務所協会・九経連木ビル研究会・長崎県建築士会壱岐支部などでの講演活動、現場施工見学会、完成見学会を開催してきました。

### 子どもエキスポin壱岐

令和4年12月28日、睦モクヨンビルにおいて、子どもエキスポを開催しました。参加者は島内の小学4年生から中高生までの約40名と運営スタッフです。子どもエキスポは一社サステナブル教育開発機構educoreと壱岐市SDGs 未来課が連携し、子供の自由な学びと自律的な生き方の育成を目指し、年間を通して様々なプログラムを提供しています。

今回は私の手掛けた建物で、島内の子供なら誰で



建築構造あてクイズ

も知っている、消防署やスーパーなどの公共建築を例として、木造、鉄骨造、RC造の「たてもの構造あてクイズ」から始めました。これにより普段外側から見ていてもわからない「建物の内部構造は色々な素材で出来ていて、木造でも様々な建築をつくる事が出来ること」を学んでくれました。

その後、地球規模での環境変動の話：災害の激甚化や気温上昇がなぜ起きているのか、温室効果ガスと地球温暖化のこと等、を身近なニュースから考えてもらい、現状と問題を確認しました。ここまでで仕込み完了です！

「じゃあ自分たちに出来ることは何があるのか？」ここからがSDGsと関わってくる本題です。モクヨンビルの中で、見えるものすべてが「木！木！木!!」の空間に触れながら、木造建築の成り立ちに触れ、



いろいろな木質材料に触れる



様々な木質材料の実物サンプルを手に取りながら、森と木造建築の間に何があるのか考えました。木造建築が増えることで、森林環境と人々の生活の好循環が生まれ、炭素貯蔵や炭素吸収源創出により脱炭素社会へ貢献できること、そしてそれらが持続的な社会の構築に繋がることを伝えました。小学生には少し難しい内容かもしれませんが、環境問題や未来の建築に興味を持つきっかけとなってほしいと思います。今回はレクチャー形式で行いましたが、今後はワークショップや実際の山や製材工場に足を運ぶプログラムも組み込む予定です。

子ども達のモクヨンビルの感想は、「木の匂いがすごくいい！」が一番多く聞かれました。今後の展開としては、壱岐島外からの修学旅行生に対して同様のSDGsに係るプログラムを提供していくことになっています。

**【睦モクヨンビル建築概要】**

○敷地面積/1,801.89㎡ 建築面積/96.71㎡ 延床面積/292.05㎡ 最高高さ/14.65m

○構造・耐火：木造一般在来工法4階建その他建築

○建築確認取得年月日：令和4年6月20日

建築確認完了検査済証取得年月日：令和5年1月30日



吹き抜け上部から

**睦モクヨンビル見学ツアーのご案内**

これまで施工中の構造見学会や随時受付の少人数見学会、竣工後の完成見学会を開催してきましたが、その後も視察・見学のお問合せを多方面からいただいております。

2月11日以降「モクヨン見学ツアー」として、有料ツアープランを開設しました。

お問合せはこちら

睦モクヨンビル 〒811-5136長崎県壱岐市郷ノ浦町片原触407-1壱岐湯川温泉駐車場前

有限会社 睦設計コンサルタント 代表取締役社長 松本隆之 0920-47-1819



地球環境問題と森と木造建築のはなし



最後に記念写真

## デザインレビュー2023 報告



池浦 順一郎 (福岡地域会)

今回で28回目の開催となった「デザインレビュー」は全国各地の大学、大学院、専門学校、高専などで建築を学ぶ学生達の意欲的作品の講評を通して、現代建築や都市環境を取り巻く諸問題を議論し、デザインの可能性とリアリティについて、広く意見を交換する場を提供する活動です。学生デザインのレベルを高めることはもとより、現代の建築批評や建築・都市デザインに対しての刺激となることを目的としています。

福岡近郊の大学の有志が学生実行委員会を立ち上げ、JIA九州支部が事務局を担い、支部会員が実行委員会に加わり、学生をサポートするかたちで企画を進めてきました。今回は、新型コロナウイルスの影響が下降傾向にある中、オンライン形式でなく、対面形式で開催したいとの学生実行委員の強い意志もあり、九州産業大学内で開催することができました。ただし、一般参加は無しとしています。学生達がクリティークと対面形式で議論を活発に行う様子こそは、このデザインレビューの醍醐味であり、大変有意義な時間だったことに思えます。1日目は開会式を行い、その後のポスターセッションでは学生達は順に巡ってくるクリティークや司会に対し1分の発表と2分の質疑応答でディスカッションを行うことができました。そして、今年は久しぶりに懇親会も催すことができ、そこでも学生達はクリティークと場外プレゼンテーションを行っていました。2日目は、決勝進出する8名を選抜し、2名ずつ対戦形式で登壇し、プレゼンテーションを行いました。結果、勝ち残ったに4名の中から最優秀賞と優秀賞が与えられました。この決勝戦の様子はLIVE配信も行い、広く視聴できるようにしております。今回は、コロナ以前のように模型やプレゼンテーションボードを展示することができ、議論も活発に展開され、会場がとても熱を帯びたものとなりました。

また、JIA九州支部では、建築教育支援活動の一環として、高校生を対象に『デザインレビュー2023』への見学参加者を「高校生レポーター」として募集しました。各地域会から普通科・工業科を問わず、これから進路を検討していく高校生に対して、全国各地の建築を学ぶ学生たちの取り組みや作品に触れ、建築の楽しさや魅力を感じてもらおう事業です。今年度は現地見学を行うことができました。

実は、今回はコロナの影響で学生間の次の学年へバトンタッチするコミュニケーションが取りづらかったこともあり、実行委員の立ち上げに苦勞をしました。そのような中、九州産業大学の矢作教授のご尽力で実行委員の立ち上げ、そして無事開催することができました。感謝致します。

次回のデザインレビューも学生達にとって、建築を考え、そして楽しむ場所となるように支援を続けていきたいと思います。

主催：学生デザインレビュー2023実行委員会

共催：日本建築家協会九州支部

特別協賛：株式会社総合資格

学生実行委員長：原 仁之丞（九州産業大学3年）

【学生実行委員】：九州圏内の学生

【実行委員】：池浦順一郎（DABURA.i）、川津悠嗣（かわつひろし建築工房）、谷口遵（建築デザイン工房）、豊田宏二（トヨタデザイン）

【場所】：九州産業大学（Youtube LIVE配信）

【クリティーク】：島田 陽（タトアキテクト）

百田 有希（一級建築士事務所 大西麻貴+百田有希/o+h）

二俣 公一（ケース・リアル/二俣スタジオ代表）

前田 圭介 (UID/近畿大学工学部教授)

山田 紗子 (山田紗子建築設計事務所代表)

【司会】： 矢作 昌夫 (矢作昌夫建築設計事務所/九州産業大学教授)

■スケジュール

2月11日(土)予選審査名・応募者数283名、

3月11日(土)公開審査出展69名、ポスターセッション

3月12日(日)決勝選抜の8選を選定し、最優秀1作、優秀2作を決定した。また、クリティーク賞を各1名ずつ選出(合計5名)、同時にJIA全国学生卒業設計コンクールに推薦する予定者6名も選出された。

参加作品：予選登録者数360名、予選提出者283名、本選通過者73名、本選審査出展69名

■学生設計選奨

○最優秀賞：平松那奈子(京都大学)「おぼけの合奏」

○優秀賞：佐藤直喜(名古屋工業大学)「山を建てる」

：大岩樹生(法政大学)「都市の再生速度\_現代的鑑賞から考える東京駅の劇場\_」

■クリティーク賞

○島田陽賞：奥田真由(法政大学)「Circus~ひしめく視線が空間を連鎖し、見せ場となる学校~」

○百田有希賞：岡田梨々花(島根大学)「島じまいの物語」

○二俣公一賞：仮屋翔平(鹿児島大学)「SABO\_駅 土砂災害警戒区域の停留所」

○前田圭介賞：市花恵麻(明治大学)「料理的建築」

○山田紗子賞：中山亘(九州大学)「落語建築」

■JIA九州選奨

○仮屋翔平(鹿児島大学)「SABO\_駅 土砂災害警戒区域の停留所」

○小田拓生(熊本大学)「野外教育施設再考 -アカマツとの共生建築-」

○中山亘(九州大学)「落語建築」

○猪股萌華(崇城大学)「保育園と貯水槽とカームダウン空間」

○松尾佳祐(九州工業大学)「食景を織る」

○成枝大地(九州大学)「切り折り重なり貼り庵」

■記録誌出版：学生実行委員会がデータをまとめた上、株式会社総合資格にて出版、販売を担当して頂く予定。



開会式の様子



ポスターセッションの様子



決勝トーナメントの様子



## デザインレビュー2023 高校生レポーター活動報告



重田 信爾 (大分地域会)

今年度も『デザインレビュー2023』の最終日(3月12日(日))に、「デザインレビュー2023 高校生レポーター」事業を行いました。本事業は、高校生に『デザインレビュー2023』を見学・視聴してもらい、全国各地の大学などで建築を学ぶ学生たちとその作品に触れてもらうことで、建築の楽しさや魅力を感じてもらうことを目的に、九州支部の建築教育支援活動の一環として2020年から取り組んでいる事業です。参加する高校生からはレポートを提出してもらい、支部からは会場までの交通費を補助しています。

今年の『デザインレビュー2023』は昨年が続いての対面開催(オンライン併用)となり、高校生レポーターも対面・オンラインの併用開催として募集を行いました。募集開始時期の遅れもあり、各地域共通で反応が鈍かったのですが、最終的に現地対面参加3名、オンライン参加1名の応募がありました。対面参加は3名とも長崎地域会からの参加で、オンライン参加は宮崎地域会からの1名でした。

対面参加の皆さんは、長崎県から午前10時ごろ会場に到着し、模型やプレゼンテーションの見学・拝聴を行い、非常にいい経験になったとのこと。プレゼンではなかなかハイレベルな議論でしたが、実際の作品を見た上で、学生の想いや先生方の理解や追及など、建築の面白さが伝わっているのではないかと思います。長崎まで帰られる関係で16時頃会場を後にされ、残念ながら最後まで視聴はかないましたが、それでも非常に刺激的な時間を過ごされたと感じています。

オンラインでは、宮崎地域会の宮崎工業高等学校から1名が視聴参加されました。映像を視聴しながらポイントで越山会員が解説をはさみながら進められたとのこと。マンツーマンでの視聴でしたので、いろいろなお話もでき、参加した高校生にとっては、大きな刺激になったのではないかと思います。

今回も対面での開催となり、参加した高校生にとっては、対面ならではの現地で体験する雰囲気や迫力を感じて頂けたのではないかと思います。また、オンラインの開催でも、プレゼンテーションや作品への興味、建築・設計についての興味を深めることへつなげて頂けたと感じています。全体の参加人数は4名と多くありませんでしたが、非常に充実した内容から参加した高校生には何かを感じて頂けたのではないかと思います。九州支部が高校生に対しての建築・設計についての啓発活動の一翼を担えたのではと感じています。

最後になりましたが、デザインレビュー2023開催にご尽力頂いたデザインレビュー2023実行委員(学生・社会人)の皆様、ご協力を頂いた会員の皆様に、感謝すると共に御礼申し上げます。

<デザインレビュー2023高校生レポーター各地域会担当>

高濱和久(北福岡)、福田哲也(福岡)、清水浩一郎(佐賀)、一丸康貴(長崎)、林田直樹(熊本)、重田信爾(大分)、越山明典(宮崎)、酒井一徳(鹿児島)、川津悠嗣(九州支部)



長崎から参加者



宮崎からオンラインによる視聴の様子

## デザインレビュー2023を終えて

原 仁之丞（九州産業大学3年）



今回は九州産業大学にて3/11（土）・12（日）の二日間で第28回目となるデザインレビューを開催いたしました。ご協賛くださった皆様、またお忙しい中、開催に向けてご尽力いただいたJIAの皆様にご心から感謝申し上げます。

今年度は大会テーマとして綴るという言葉掲げました。新型コロナウイルス収束の兆しが見え始めたこの時代に、建築とは何かを根幹から論じ直し、熱意のある全国の建築学生が有意義な時間を過ごしながらコロナの先にある新たな時代を綴ることを願って活動を進めてきました。また、今大会は4年ぶりの完全対面、クリティークの皆様と出展者様、実行委員が参加できる懇親会の開催という目標も掲げ、九州産業大学、福岡大学、近畿大学、北九州市立大学から参加した実行委員34名の活動によって無事達成することが出来ました。

今大会は253作品の予選応募があり、その中から選ばれた67作品が福岡の地に集まりました。例年よりも多い作品数が本選で集まり、熱のこもった議論が繰り広げられました。

1日目はポスターセッションが行われました。会場には多くの熱意がこもった模型が並び、対面ならではの迫力のある展示となり、大きな盛り上がりを見せました。

また、2日目では選出された8作品の審査が行われました。2日目の審議では2つの作品に焦点を絞って審査することで、他の設計展では見られないような議論が生まれ、建築を様々な視点から考えるきっかけとなりました。

4年ぶりの完全対面での開催にあたって、引継ぎの資料がないことや対面での運営経験者がいないことなど運営を一から進めることが求められました。さらに、実行委員の収集が遅れ、時間のなかでの活動となり、大会準備期間中は課題が尽きない状況でしたが様々な方々のご協力と、実行委員の活発な活動も支えとなり完全対面での開催を実現することが出来ました。

また、完全対面、懇親会開催によって対面で開催する意味が問われた大きな意義のある大会となりました。

1日目の夜に行われた懇親会では、クリティークの方と参加者や参加者同士が作品の内容や製作する上での苦労した点、クリティークの方に自分の作品をプレゼンする様子などが会場中で見られました。コロナ過の中では見られないような生き生きとした対話をしている様子を見て、コロナ過で委縮した学生が対話を通して再起できる場所になったことを実感しました。

今大会で生まれた議論がこれからの建築の可能性や建築の新しい考え方などを切り開いていくこと、対話の大切さを発信することが出来ました。今後ともデザインレビューをよろしく願い致します。



全体写真



**椎橋 武史** (福岡地域会)

この度JIAに入会させていただきました椎橋と申します。

2009年から2020年までの11年間、東京の香山壽夫建築研究所に勤務し、その間に設計・監理業務で常駐した福岡県久留米市に居を移し、建築士事務所を開設しました。現在は九州と関東で主に活動していますが、いずれ領域は全国に広げられればと考えています。

また、2007年に東京都立大学の博士課程を修了し、博士(工学)を取得しています。主題はアメリカの建築家ルイス・サリヴァン(1856-1924)で、彼の思想と建築造形の関係性を研究しました。彼の有名な言辭に「形態は機能に従う(Form Follows Function)」がありますが、この言葉に対する20世紀の建築思想における誤解を明らかにすることがテーマの一つでした。彼の著作を読み解いていくと、サリヴァンの「機能(Function)」は、「魂(Soul)」「無限の創造的精神(Infinite Creative Spirit)」そして「アイデンティティ(Identity)」という言葉と等価に結ばれています。すなわちFunctionは単なる用途や環境(機能主義の基本概念)といった外的要因を超えて、事物に魂を与えてその有機的な本質を表現する、内奥からの霊的な力なのだと、サリヴァンは語っています。

建築は「アイデンティティ」が表現されたものでなければならないのは自明です、施主個人の、家族の、コミュニティの、自治体の、地方の、土地風土の、時代の、社会の、そして依頼された建築家自身の。それらを、サリヴァンのようにどこまでも深い内奥まで潜り、魂をつかみ、表に現すことが、建築家の職能だと考えています。

今後ともよろしくお願いたします。



久留米シティプラザ(香山壽夫建築研究所にて担当)  
写真:小川重雄



## JIA大分地域会協力会としての存在意義



衛藤 慎也（大分地域会協力会）

平素はJIA九州支部並びに大分地域会におかれましては、格別のお引立てを賜り厚く御礼申し上げます。

弊社は大分県大分市に本社を置く、住宅資材総合商社でございます。システムキッチンやユニットバス、洗面をはじめとする水廻り全般から、衛生陶器、空調機器、照明器具、建材全般そしてインテリアにおけるオフィス家具から住宅用ファニチャーまで幅広く取り扱っております。また水廻り商品において多くの輸入機器も取り扱っております。

弊社が入会したのは2007年8月ですので、かれこれ15年以上の在籍となります。その間様々なイベントや情報交換をさせて頂き、大変有意義な時間を過ごして参りました。大分地域会の例会では協力会各社の得意分野を色々な形式で披露させて頂きました。弊社では自社ショールームで新商品研修はじめ、輸入機器を実際に使用しての料理教室など、色々な楽しい企画を行いました。企画後に行われる懇親会では、会員の皆様と現況や今後の市場について等有益な情報交換を行ったり、全く仕事には関係のないプライベートな話で盛り上がりたりと、文字通り懇親を深めることができました。

2020年初頭から、いわゆるコロナ禍に突入しましたのは周知の通りです。日本中いや世界中が自身の保護に動き、ビジネスも思うように進まない世の中になってしまいました。弊社においては商品遅延に始まり、各メーカーによる受注停止という大変厳しい状況に追い込まれ、今回のケースは初めての経験でした。決められた納期で商品を納めるのが我々代理店の務めですが、その商品の発注ができないという不測の事態に困惑する日々、注残が膨らむも納期回答ができないという難しい局面に直面しました。

また「営業」というもの自体、ZOOMなどのツールを用いた面談が主流となってきました。いわゆる対面が

NGな世の中で、JIAの例会においても例外ではなく、当然のように懇親会も開催されずという流れも確立されてしまいました。可能な限り毎月の例会（対面・ZOOM等）で情報交換を行なって参りましたが、少しずつこれまで築いた関係が遠くなっていくような感覚になったのは、私だけではないのではないのでしょうか。

とはいえ『世の中の色々なこれまでの常識が変わってしまった』ことは、一見ネガティブに捉えがちな表現ですが、ポジティブな世界が開かれたのも散見されます。一例に弊社が新規事業としてスタートしたアウトドア事業があります。これはコロナ禍が与えてくれたビジネスです。キャンプブームという世界規模に発展したこのビジネスは、新たにインテリア業界との融合や、飲食業界との融合も創出されています。建築においても例外ではなく、自宅にBBQスペースを確保したり、休眠していたキャンプ場のリノベーションや、新たにサウナ棟を新築など、これまでになかった分野が盛んになって参りました。既にカルチャーとして根付きつつあるアウトドアの世界でも、田舎の山間に新たな建築が生まれたり、近年のオール電化の需要急増とは対照的に、薪風呂用の浴槽や薪ストーブといった需要も増えています。ある意味人間らしさを感じることができる建築が増えていくのかもしれませんが。

JIA大分地域会において、我々「協力会」の存在価値を改めて見出すためには、正会員の方々と限られた時間の中で、より多くの有意義な時間を費やし、魅力あるイベントを企画し、情報交換を実施し、最終的にはより優れた建築に繋がれば幸甚だと考えます。コロナ以前より更に進化した大分地域会そして、それを信頼から支えることができる協力会になれるよう、微力ながら貢献して参りたいと思います。どうぞ今後ともご指導並びにご支援のほど、宜しくお願い申し上げます。（株式会社JUKI）

## JIA九州支部 大分地域会の入会から活動を通して



濱田 徹一 （大分地域会協力会）

JIA九州支部並びに大分地域会におかれましては、日頃よりご指導ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

2019年12月頃に発生し世界に感染拡大が始まった新型コロナウイルス感染症ですが、第8波も減少傾向が続く見込みとなり、政府は3月13日から新型コロナ対策の「マスク着用を個人の判断に委ねることを基本」とする指針をまとめました。医療機関・高齢者施設の訪問時や通勤ラッシュ時など混雑した電車・バスの乗車については着用が推奨される場面を示す一方、学校・保育所・こども園では着用を求めないことになりました。又、5月8日には感染症法上の位置付けが季節性インフルエンザと同等の5類に引き下げを決定しました。

新型コロナウイルス感染症の流行が始まって4年目になりますが、当初は現在の状況は全く想像をしておらず、集まっただけの毎月の例会も2020年は4度の開催のみでその他は中止としたり、楽しみにしていた懇親会や忘年会も中止するというやむを得ない状況でした。このような環境で大分地域会は、重田会長をはじめ役員が就任して間もない時期でしたので、例会の対応には感染の状況を睨みながら大変苦労されたと思われま

す。その後はZOOM利用によるweb会議が始まり徐々に活動も再開されましたが、感染状況によっては積極的に活動に参加できず、協力会員の一人として正会員の皆様のお役にたてず大変申し訳ない気持ちであります。今後は基本的な感染対策が大幅に緩和され、感染拡大前の活動に徐々に戻れるのではないかと期待をしていますし、今後の活動にも積極的に参加していきたいと思

います。弊社は、空調・エレベーター・工場設備の納入やサービスを展開していますが正会員の皆様のところへ訪問していたご縁もありご入会のお誘いを頂きました。大分県人はクールで負けず嫌い、個人主義とよ

く言われていますが、大分地域会の皆様は入会前から誠実で優しい人が多く、長いお付き合いができそうな人ばかりでよい関係が築けると期待ができる環境でした。

建物が完成するまでには長い時間がかかるため出来上がった時の達成感は大きく、今後のやりがいに繋がっていきます。その中でも設計は建築に関係するたくさんの方が連携を取り、試行錯誤を重ねて打ち合わせを行います。その様な環境下で自分の専門知識や経験を存分に活かしたいと思い、JIAへの入会を希望しました。

2007年に入会して以来、会員の皆さんと長年お付き合いをできている事を大変うれしく思っています。

活動に関しては、2011年より協力会員の技術や商品により深く勉強するために例会の中で定期的な勉強会の実施をして頂き、弊社も早速省エネ空調機商品の紹介をさせて頂きましたが事務所に訪問をした際でも協力会員に対してのいつも感謝の気持ちをもって対応して頂いていることがよく伝わってきます。

又、懇親会においても正会員と協力会員の垣根もなく活動についての反省や取り組みの話をしたり仕事以外の話をしたりと楽しい時間を過ごすことができました。今後は感染対策も緩和され、たくさんの方が出席されて、更に活気のあるイベントとなる事を願っています。

今でも協力会員への新規入会する会社があることは大分地域会として嬉しいことだと思いますし、今後もお互いに何でも相談できる信頼関係を築いていき、「困ったことがあればお互いにアイデアを出しあい問題を解決する」そういった関係のもと大分地域会を盛り上げていきたいと考えています。

今後ともご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。（柳井電気工業(株)）

報告事項			
③ <常設委員会> 活動報告			
1	総務委員会	下山道男 苦情対応WG:川津悠嗣 知財WG:佐々木 信明	
12/8第4回委員会 ・入退会審査 ・広報委員会WGについて ・JIA個人情報保護規程の見直しについて ・正会員入会申込書の変更について ・フェロー会員推薦について ・登録建築家「マニフェスト」修正について			
苦情対応WG : 報告事項なし			
知財WG : 報告事項なし			
2	財務委員会	作田耕一朗	
12月6日16:00~18:00 Zoom会議 1.特定費用準備資金積立のアンケート調査 2.23年度支部運営費配分予算(11月末時点の正会員数に基づいて(例年とおりに)) 3.JIA事業助成採択再審査			
3	職能・資格制度委員会	佐々木 信明	添付資料 1
理事会懇談会にて登録建築家の”在り方”検討中に付き検討経過を待って委員会再会→1月30日(月)に委員会予定 ・1月16日(月)職能・資格制度/本部建築家資格制度実務 合同委員会開催 →添付資料1			
4	業務委員会	前田哲 建賠WG:田中康裕	別添資料 2,3
JIA業務委員会(2023/1/17開催)の報告 ①業務報酬基準改定検討委員会の進捗(別紙①) ②法主基準改定の検討内容について(別紙②)			
5	広報委員会	川津悠嗣 支部は川津悠嗣、有吉兼次	
1/6本部広報委員会リーフレットWG、1/9ブルテン編集会議、1/12本部広報委員会WEB、1/19 支部長漫遊記in宮崎、3月末ブルテン発行予定。			
6	教育委員会	田中康裕	
1月16日委員会開催			
7	国際委員会	水本浩二	
・12/23 第9回国際委員会 (名誉会員、ASA~Universl Design WS、KIRA~JIA交換プログラム、EAST-EAST関連ほか全12議題)			
8	CPD評議会	田中康裕	
12月23日委員会開催			
9	建築家資格制度実務委員会	佐々木寿久	
・12/12 建築家資格制度実務委員会 ・1/16 建築家資格制度実務委員会			
報告事項			
④ <全国会議> 活動報告			
1	JIA環境会議	古森弘一 伝統的工法のすまいWG:古川保 気候変動対応WG:福田展淳	
・1月12日(木)18:00-20:00 古森弘一・福田展淳出席 ・JIA2050年カーボンニュートラルへの提言2023を募集しております。 1月31日(火)締め切りとなっています。奮って提出をお願いします。 <a href="http://www.jia.or.jp/activity/cns/cn.pdf">http://www.jia.or.jp/activity/cns/cn.pdf</a>			
2	JIA保存再生会議	柴田真秀	
報告事項なし			
2-2	JIA保存再生会議 文化財修復塾	鯉坂徹・下山 道男	
12/15第6回 ・各支部の活動と今後の予定 ・文化財防火トークイベント参加 ・2022年度履修状況報告 ・HAサロン開催(12/26) ・座学講座ビデオ公開とテキスト作成 2023/1/18第7回 ・各支部の活動と今後の予定 ・HAサロン開催予定(2/25) ・歴史的建造物被災調査(東北支部)			
2-3	JIA保存再生会議 近現代建築物緊急 調査ユニットWG	松島逸人	
報告事項なし			



3	JIAまちづくり会議	松島逸人		
	報告事項なし			
4	報告事項なし	林田直樹		
	報告事項なし			
5	JIA建築相談連携会議	有吉兼次		
	報告事項なし			
5-2	JIA九州支部建築相談委員会：	有吉兼次		
	報告事項なし			
6	住宅等連携会議	佐々木寿久		
	・1/11 住宅連携会議			

## 報告事項

### ⑤ <その他>

1	全国学生設計コンクール実行委員会	田中康裕		
	1月18日委員会開催			
2	職責委員会	松山将勝		
	報告事項なし			
3	懲罰審査委員会	川津悠嗣		
	報告事項なし			

## 報告事項

### ⑥ <特別委員会> 活動報告

1	オンライン_リモート対応や環境整備に特化した特別委員会	村上明生		
	報告事項なし			
2	カーボンニュートラル特別委員会	古川保		
	2050CN提言集作成：前会員から募集する。サンプルを1月10日、1月17日、1月24日にHPにて公開。提言集締め切りは1月31日。特別委員会にはLCAワーキンググループがあり、住宅LCAと非住宅LCAに分かれて深化する。九州LCA委員会を1月25日に開いて、議論を深める。			
3	UIA国際マニフェスト・リレー特別委員会	下山 道男		
	報告事項なし			

## 支部事業委員会報告

### 教育支援委員会

1	建築塾WG	佐々木寿久		
	報告事項なし			
2	デザインレビューWG	池浦順一郎		
	令和5年1月11日 実行委員会会議			
3	DR高校生レポーターWG	重田 信爾		別添資料 1
	12/21・1/4・1/17 メール協議、1/20～ 参加者募集開始			
4	建築家派遣（エコルサポート）	福田 哲也		
	報告事項なし			

### 活動支援委員会

1	収益事業WG	川津 悠嗣		
	報告事項なし			
2	JIAサポートWG	川津 悠嗣		
	報告事項なし			
3	木活（モクカツ）WG	松島 逸人		
	報告事項なし			
4	25年賞WG	下山 道男		
	現地審査（鹿児島・熊本）修了 来年度も地域会からの応募よろしくお願ひします			
5	九州建築新人賞WG	松山 将勝		
	協議事項による			
6	ケンバイWG	田中康裕		
	12月5日webセミナー開催 12月23日委員会開催			

報告事項	
③ <常設委員会> 活動報告	
1 総務委員会	下山道男 苦情対応WG:川津悠嗣 知財WG:佐々木 信明
1/31:第6回委員会 ・入退会審査 ・表彰委員会TF 建築家のあかりコンペ構成について ・九州支部より名誉会員の会費について ・JIAオープンデスク制度規則改正について ・正会員入会申込書の変更について ・2023年度委員会構成について 2/20:第7回委員会 ・入退会審査 ・名誉会員の選考に関する規程 改定案について ・会員規程について ・準会員・協力会員の会員証について	
苦情対応WG:	報告事項なし
知財WG:	2月28日 <知的生産者の公共調達に関する法整備連絡協議会>に参加 全国の学校建築のプロポーザル発注状況について
別添資料	1
2 財務委員会	作田耕一郎
2月7日第5回委員会 「特定費用準備資金の積立、2023年度本部予算について、事業助成金について」 3月7日第6回委員会 「JIA事業活動助成追加及び次年度予算承認について」	
3 職能・資格制度委員会	佐々木 信明
・2月7日第6回委員会 ・2月13日第6回合同委員会 ・3月2日第7回委員会 ・3月6日第7回合同委員会 ・3月20日第8回合同委員会 ・3月27日第9回合同委員会	
4 業務委員会	前田哲 建賠WG:田中康裕
・3月2日業務委員会報告 業務報酬基準関連について、2月17日に国土交通省設計三会意見交換会あり改定の為のアンケートサンプル等分析について添付PDFの意見書をJIA本部より提出した。(参照:【資料1-①】業務報酬基準の見直しに係る意見(JIA))	
別添資料	2、3
5 広報委員会	川津悠嗣 支部は川津悠嗣、有吉兼次
1/25本部広報委員会リーフレット委員会WG、2/4、3/1ブルテンWG、2/6、3/7本部広報委員会、2/16、3/21熊本地震WGブルテン3月号発行予定(4月上旬)	
6 教育委員会	田中康裕
3月22日委員会開催 新規教育事業について協議	
7 国際委員会	水本浩二
・1/27 第10回国際委員会 (Goldencube賞、ASA大会、KIRA～JIA交換プログラム、JIA2050CN提言、海外出張補助基準ほか全12議題) ・2/24 第11回国際委員会 (IAI来日、KIRA学生来日、ASA大会、AIA大会、JIA本部新ウェブサイト、委員会構成ほか全14議題) ・3/31 第12回国際委員会 (UIA大会展示ブース、委員会構成、2023年度委員会日程、JIA大会常滑ほか全10議題)	
8 CPD評議会	田中康裕
1月27日、2月24日、3月31日評議会開催	
9 建築家資格制度実務委員会	佐々木寿久
・2/13 建築家資格制度実務委員会 ・3/6 建築家資格制度実務委員会 ・3/20 建築家認定評議会 ・3/27 建築家資格制度実務委員会	
報告事項	
④ <全国会議> 活動報告	
1 JIA環境会議	古森弘一 伝統的工法のすまいWG:古川保 気候変動対応WG:福田展淳
JIA環境会議は下記の日程で開催され、九州支部からは古森弘一、福田展淳が参加しました。 ・8/1(月)・9/26(月)・10/20(木)・12/1(木)・1月12日(木)・3月13日(月)	
2 JIA保存再生会議	柴田真秀
3月14日リモート会議、2023年度、各支部メンバーの変更なし	
2-2 JIA保存再生会議 文化財修復塾	鯨坂徹・下山 道男
2/15第8回 ・各支部の活動と予定 ・文化財ドクターについて ・2022年度履修状況について ・現地講座への修復塾補助について ・HAサロン 2/25(土)開催 ・座学講座ビデオ公開とテキスト作成 3/15第9回 ・各支部の活動と予定 ・釧路沖地震M6.1への対応 ・文化財防災救援基金の立上げ ・京都工繊大 保存再生学シンポ ・2022年度履修状況について ・第9回 総括講座の開催(日時:4月29日(土)9:40～16:30)	
2-3 JIA保存再生会議 近現代建築物緊急 調査ユニットWG	松島逸人
報告事項なし	



<b>3</b>	<b>JIAまちづくり会議</b>	<b>松島逸人</b>	
	1月25日	WEB会議開催。 全国の活動確認。 今期の活動のまとめ方の確認。 来期の活動の仕方を協議。	
	3月14日	まちづくり支援機構 WEB会議。	
<b>4</b>	<b>JIA災害対策会議</b>	<b>林田直樹</b>	<b>別添資料 4</b>
	1/23	第6回災害対策会議	2/20 第7回災害対策会議
	4/26	水曜日 15時～18時	シンポジウム「復興の事前準備を考える」 開催予定 各地域会長に参加を呼びかけ
<b>5</b>	<b>JIA建築相談連携会議</b>	<b>有吉兼次</b>	
		報告事項なし	
<b>5-2</b>	<b>JIA九州支部建築相談委員会：</b>	<b>有吉兼次</b>	
		12月20日から3月31日は下記の相談対応を行いました。 ○12月20日 福岡 一般 福岡市役所 住宅相談対応 住宅プランの相談 ○12月20日 福岡 一般 福岡市役所 住宅相談対応 ハウスメーカーの図面について相談 ○1月24日 宮崎 一般 土留めにブロック塀が使われていて、今後の対応 ○2月22日 鹿児島 一般 築4年鉄筋5階建てビル 外壁クラック 原因を知りたい ○3月7日 鹿児島 トラブル 新築住宅、注文と違う瓦や外壁吸排気換気扇フード取り替え処理が適正か相談	
<b>6</b>	<b>住宅等連携会議</b>	<b>佐々木寿久</b>	
		・2/8 住宅連携会議 ・3/8 住宅連携会議	
<b>報告事項</b>			
<b>⑤ &lt;その他&gt;</b>			
<b>1</b>	<b>全国学生設計コンクール実行委員会</b>	<b>田中康裕</b>	
		2月17日委員会開催	
<b>2</b>	<b>職責委員会</b>	<b>松山将勝</b>	
		報告事項なし	
<b>3</b>	<b>懲罰審査委員会</b>	<b>佐々木 信明</b>	
		3月30日 第1回懲罰審査委員会	
<b>報告事項</b>			
<b>⑥ &lt;特別委員会&gt; 活動報告</b>			
<b>1</b>	<b>オンライン_リモート対応や環境整備に特化した特別委員会</b>	<b>村上明生</b>	
		報告事項なし	
<b>2</b>	<b>カーボンニュートラル特別委員会</b>	<b>古川保</b>	
		・「JIA2050年カーボンニュートラルへの提言」は4月17日に会員に配布予定。応募者は44編だったとのこと。 その後、「カーボンニュートラルの樹」を立ち上げ、会員の議論の場としたい。 ・カーボンニュートラル委員会は6月で解散する。 ・下部のLCNワーキングは非住宅と住宅に分けて議論を行っている。非住宅WはLCAマニュアルを作成。住宅WはLCAを省エネ法の中に入れる政策提言を行うための準備を行っている。 ・カーボンニュートラル連続セミナー15回を公開最終編集	
<b>3</b>	<b>UIA国際マニフェスト・リレー特別委員会</b>	<b>下山 道男</b>	
		報告事項なし	

## 支部事業委員会報告

### 教育支援委員会

1	建築塾WG	佐々木寿久	
	報告事項なし		
2	デザインレビューWG	池浦順一郎	
	1月25日実行委員会会議 2月8日実行委員会会議 2月17日総合資格会議 2月22日実行委員会会議 3月8日実行委員会会議 3月11日日本番1日目 3月12日日本番2日目		
3	DR高校生レポーターWG	重田 信爾	
	～3/11 DR高校生レポーター募集 3/12 DR高校生レポーター実施（対面3名、WEB1名） 3/27 DR高校生レポーター感想文受領		
4	建築家派遣（エコルサポート）	福田 哲也	
	報告事項なし		

### 活動支援委員会

1	収益事業WG	川津 悠嗣	
	報告なし		
2	JIAサポートWG	川津 悠嗣	
	2/18・19指宿港海岸緑地整備WS参加		
3	木活（モクカツ）WG	松島 逸人	
	報告事項なし		
4	25年賞WG	下山 道男	
	25年賞：みやまコンセール（槇文彦）鹿児島県霧島市 来年度も地域会からの応募よろしく申し上げます		
5	九州建築新人賞WG	松山 将勝	
	報告事項なし		
6	ケンパイWG	田中康裕	
	報告事項なし		

## 11月26日 福岡地域会 忘年会

■日時：11月26日 18時30分～

■場所：博多八仙閣

この1年の慰労と親睦の意を込めて、協力会員の皆様と一緒に忘年会を開催しました。大勢で集まる事が少なくなっていますが、今年は総勢56名の皆様に出席頂き、忘年会を開催する事ができました。久々の忘年会の開催で大変盛り上がり、1年の良い締めくくりとなりました。



左：忘年会風景

右：塚川新会員の挨拶

## 福岡地域会役員会（第6回）

■日時：2022年11月26日（土曜日）16：30～18：15

■場所：八仙閣

■参加人数：13名

■確認事項

第5回役員会議事録確認

■審議事項

■協議事項

1. 遊休財産の保有制限について
2. 第7回福岡地域会役員会日程変更について
3. 2023年度予算について
4. その他

■報告事項 1. 会長報告 2. 九州支部長報告 3. 事業室報告



第6回福岡地域会役員会の様子

## 福岡地域会役員会（第7回）

■日時：2023年1月26日（土曜日）17：00～18：40

■場所：共創館 カンファレンスE

■参加人数：6名

■確認事項

第6回役員会議事録確認

■審議事項

■協議事項

1. 福岡建築倶楽部ゴルフコンペ幹事について遊休財産の保有制限について
2. 2023年度予算について
3. 福岡地域会規則改正について



■長崎地域会第1回例会開催

例会+会員セミナー

●日時：2022年12月19日（月）15：30～17：30

●場所：総合資格学院長崎校 長崎市江戸町6-5

参加人数 18名

■報告事項

- ・第5回支部役員会の報告
- ・長崎地域会の運営体制について

■協議事項

- ・長崎地域会の遊休財産取り扱いについて
- ・今年度の地域会事業について
- ・2023年度の事業計画案及び予算案について



■会員セミナー 睦設計 松本会員より

- ・壱岐に建設中の「睦モクヨンビル」について講演  
最新の現場施工状況を交えながら、計画の全体概要  
設計説明、施工の様子などを発表した。



■長崎地域会 忘年会 参加者20名

●日時：2022年12月19日（月）18：00～

●場所：椿 長崎県長崎市油屋町2-6-2F

■会員活動報告 12月2日(金) 睦設計 松本会員

九経連木ビル研究会事例発表 会場+WEB

- ・総製材現し4階建木造「睦モクヨンビル」を発表。

●福岡電気ビル共創館6階



■会員活動報告 12月28日(水) 睦設計 松本会員

子どもエキスポin壱岐 木造建築とSDGsについて

- ・モクヨンビルの空間体験を通じて、木造建築と森の  
関係、炭素貯蔵や温室効果ガス削減について学ぶ。



## ■2022年度 第8回例会

日時 2022年12月20日（火） 17:15～18:55

場所 J:COMホルトホール大分 303会議室

出席者 20名

JIA会員 出席12名、委任状 8名、欠席 1名（20/21）

協力会員 16名、松山支部長、会員外2名

議事録作成者 高橋幹事

議事録署名人 坂本会員

### ◆内容

#### 1.確認事項 【高橋幹事】

出席者人数の確認を行った。

会員数21名の内、出席者総数20名（委任状による出席者数8名含む）、欠席者1名により、例会が成立する。

#### 2.会長挨拶 【重田会長】

#### 3.報告事項 【重田会長】

##### ○支部役員会の報告

- ・遊休財産処理について
- ・2023年度予算、事業計画について
- ・DR高校生レポーターについて など報告がありました。

##### ○大分地域会の報告 【重田会長】

- ・木の匠育成事業について 11/11、11/25 の報告がありました。

##### ○その他 【竹宮副会長】

- ・インテリア設計士協会家具コンペ審査協力の報告がありました。

#### 4.例会企画

##### ○支部長漫遊記～番外編～ 【竹宮副会長】

- ・松山支部長に御来県頂き、支部長漫遊記～番外編～を開催しました。

登壇したのは重田大分地域会長と高橋幹事、図らずも発表内容がこども園と保育園と似た施設となりました。

まず、最初に登壇したのは高橋幹事。大分市の住宅地内の保育園の建替え計画について、失敗談を交えつつボツ案や初期案も含めて紹介していただきました。

松山支部長から「制約の厳しい住宅地に建つことで、逆に削ぎ落とされたプランとなっている印象。内装はもう少し遊びが有った方がより良くなると思う」と評価頂きました。



重田会長には鹿児島県始良市に建つこども園の計画について発表して頂きました。最初は2007年に医院を設計され、関連施設で5棟となる認定こども園について、図面と写真を利用して紹介いただきました。

松山支部長からは「屋根の形状が大変綺麗」「内装の木の使い方が熟れている」と評価をいただきました。



##### 5. 忘年会

松山支部長もご参加いただき、数年ぶりに忘年会が開催されました。協力会の方々との懇親を深めることが出来ました。



##### 6. 閉会 【竹宮副会長】

竹宮副会長より閉会の辞がありました。

## ■次回2022年度 第9回例会

日時：2023年1月17日（火） 19:15

場所：J:COMホルトホール大分302会議室



## 2022年度 JIA九州支部 支部長漫遊記

日時：1月19日 木曜日 15：00～18：00

場所：ニューウェルシティ宮崎

参加人数：20名

- ・コロナの影響で登壇者の人数が当初予定の3名から2名となったが松山支部長を始め、川津広報委員長、有吉広報副委員長、福田福岡会長をお迎えし第7回目となる支部長漫遊記を開催した。  
登壇者：株式会社 石躍 健志建築設計事務所 石躍 健志氏  
渡辺 祐樹建築設計事務所 渡辺 祐樹氏





活動スケジュール

○1月

13日：北九州市建築6団体新年賀詞交歓会

○2月

10~11日：韓国交流事業 釜山学生フェスティバル参加

○3月

特になし

韓国交流事業 釜山学生フェスティバル参加

■日時：令和5年2月10日~11日

■場所：韓国釜山市 釜山駅ユラシアプラットフォーム

■参加：塩釜、後藤

■報告事項

・20年を超える日韓合同学生ワークショップの絆を未来に繋げる第一歩として、釜山市建築学生クラブ連合会 Kim 会長、釜山大学 劉先生の発案により、釜山学生フェスティバル (BSAF)に JIA 北福岡地域会が招待された。BSAF の代表である釜山建築士会 副会長 Kang Mi Suk 氏を始め関係者の皆様とオープニングイベントに列席し挨拶を行なった。また、記念講演では木村吉成氏の講演並びに JIA 日韓学生 WS の講演を行なった。懇親会では、日韓学生 WS 参加校の先生方や GAON の学生が参加し、懇親を深めた。劉先生から、次年度から(最低3年)の BSAF への定期参加(日韓学生 WS 受賞校代表者 渡韓及び受賞作品パネルと模型の展示)を求められた。





JIA福岡地域会3月公開例会

日時 : 3月24日 18:00開始  
 会場 : カッシーナ・イクスシー福岡3階ホール  
 登壇者 : 新聞謙一郎  
 タイトル : おばけやしきのつくりかた  
 参加者 : 82名

福岡初となる新聞氏の講演会。その関心の高さは若手から重鎮まで多くの地元建築家達が会場に集まったことでも明白であった。新聞氏処女作から一貫した建築に向き合う姿勢を、過去の実作写真交えて語られる中で、その関心は益々高まり、謎めいて歌舞くように自身を語っていく新聞氏に対し、後半は、東京から講演に合わせて来福した手嶋保氏と井上洋介氏、福岡から松山将勝氏3名を交えて、その深層に切り込む形でトークセッションが行われた。会場も巻き込みながらの2時間の講演会は、久しぶりに、リモートでは味わえない熱量とライブ感を参加者と共有でき、その後の懇親会でも深夜まで熱い建築談義が交わされた。(福田哲也)



3月公開例会の様子

福岡地域会役員会 (第8回)

■日時 : 2023年3月4日 (土曜日) 17:00~18:30  
 ■場所 : 共創館 カンファレンスE  
 ■参加人数 : 11名  
 ■確認事項  
 第7回役員会議事録確認  
 ■審議事項 入退会について 建築相談員交通費について  
 ■協議事項  
 1. 例会について  
 2. 福岡地域会規則改正について  
 3. その他  
 ■報告事項 1. 会長報告 2. 九州支部長報告 3. 事業室報告 4. 企画運営室報告 5. その他

福岡地域会役員会 (第9回)

■日時 : 2023年4月1日 (土曜日) 17:00~18:30  
 ■場所 : JIA九州支部事務局  
 ■参加人数 : 6名  
 ■確認事項  
 第8回役員会議事録確認  
 ■審議事項 入退会について  
 ■協議事項  
 1. 収支計算書について  
 2. 総会資料・総会進行について  
 3. その他  
 ■報告事項 1. 会長報告 2. 九州支部長報告 3. 事業室報告 4. 企画運営室報告 5. その他



3月24日 (金)  
 午後6時~8時  
 カッシーナ・イクスシー 福岡店 3階ホール  
 企画 福岡市中央区渡辺4丁目9-28

「おばけやしきのつくりかた」

新聞謙一郎 1983年 東京生まれ 1996年 明治大学文学部卒業 住宅、設計事務所の設立 現在は設計事務所の代表 関心: 建築	公開例会スケジュール 17:30 受付開始 18:00-18:15 JIA主催報告 18:15-19:30 新聞謙一郎プレゼン 19:30-19:45 コーディネーター 閉会に際して	参加・CPD申込 参加料: 定員180名   申込受付: 3/24(月)   料金: 前払   申込方法: 申込書・CPD申込書   申込先: JIA九州支部   申込書・CPD申込書は、JIA九州支部事務局へ   申込書・CPD申込書は、JIA九州支部事務局へ
	2023年度JIA福岡地域会 3月公開例会	

3月公開例会リーフレット







■長崎地域会第2回例会開催

例会+会員セミナー

●日時：2023年2月24日（金） 18：00～20：00

●場所：WEB

参加人数 17名

■報告事項

- ・第7回支部役員会の報告
- ・2023年度事業計画及び予算案について
- ・退会と入会希望について

■協議事項

- ・総会について



■会員セミナー インターメディア

佐々木信明・佐々木翔

- ・近作や3月オープンする「水脈mio」のプロジェクトについて全体概要や設計説明などを発表頂きました。



■長崎地域会第3回役員会開催

●日時：2023年3月22日（水） 14：00～15：00

●出席：鼻崎、松本、一丸、平松、佐々木、田中  
WEB形式にて役員会を開催

■協議事項

○総会について



■2022年度 第10回例会

日時 2023年2月21日（火） 18:30～19:30  
 場所 「J:COMホルトホール大分」302会議室  
 出席者 25名  
 JIA会員 出席 9名、委任状 6名、欠席 6名（15/21）  
 協力会員13名、会員外 3名  
 議事録作成者 山崎会員  
 議事録署名 一宮会員

◆内容

1. 確認事項 高橋幹事  
 出席者人数の確認を行いました。  
 会員数21名の内、出席者総数 15名（委任状による出席者数6名含む）、欠席者6名により、例会が成立しました。



2. 会長挨拶 重田会長

3. 報告事項 重田会長

○支部関係

- ①支部役員会報告 竹宮会員
- ・ 5/20JIA九州支部総会開催予定
  - ・ けんぱい講習会の案内
  - ・ JIA全国大会開催地は九州支部が立候補。開催県及び担当地域会は未定。
  - ・ 個人情報保護法の関係でHP上の会員生年月日等を削除の方向で検討中

②DR高校生レポーターの件 重田会長

○大分地域会

①2023年度事業計画、予算案の件 重田会長  
 総会の時にご承認をお願いします。

②木の匠実績報告  
 ¥1,200,762（補助¥1,100,000+JIA¥100,762）

③2023年度地域会総会 重田会長  
 4月18日予定 ※少し早めの予定

④事務局よりお願い 高橋幹事  
 会員名簿の記載内容についてメールしているので内容を  
 確認し今月中に事務局へ返信をお願いします。

4. 例会企画

○新入会賛助会員 株式会社BeCK 中本悠太様  
 「全空気式床ふく射冷暖房システム/コンクリート防水のご案内」

松田会員



写真下(右)Beck 中本悠太氏、(左)Beck 服平啓佑氏

5. 閉会

竹宮副会長

竹宮副会長より閉会の辞があり散会しました。  
 次回3月例会は3/14(火)19時00分(開場予定)。  
 場所は「J:COMホルトホール大分」302会議室。

6. 懇親会

日時：2月21日20：00～  
 場所：焼き鳥と野菜巻き串 居酒屋 蔵之介



■2022年度 第9・11回例会（メール報告）

日時 2023年1月19日（木）・3月14日（火）  
 場所 メールによる報告

### 熊本地域会月例会（第8回）

■日時：令和5(2023)年1月26日木曜日18：30-21：00

■場所：熊本市国際交流会館3F研修室3

■参加人数：12名

#### 1.審議事項、協議事項

##### 1-1：住宅賞について

- ・審査員は候補のうち4人とする
- ・4～6月募集、8月結果発表、審査会場はPS オランジュリ
- ・紙とCD-Rでの提出（事務局の負担軽減）
- ・賞金は10万円+3万円×3=合計19万円
- ・審査委員長はなるべくJIA以外から選出
- ・広報は地域会Facebook ページも活用

##### 1-2：次年度予算案について

- ・建築相談はJIAへの相談がほぼない状態、委員は残して活動報告・計画からは消す

##### 1-3：保有財産積立の件

- ・住宅賞について、収入なしで支出することに抵抗を感じる、何年か分を考えて予算を組む

##### 1-4：地震記録誌作成の件

- ・2月に会議あり、林田にて対応

##### 1-5：JIA ライブラリーについて

- ・熊本地域会単独だと見られないので九州支部のHPを活用する、広報委員の林田にて支部へ依頼する
- ・年間5件程度を公開、表紙を書式化する

#### 2.報告事項、確認事項

##### 2-1：25年賞審査の件

- ・12/18 審査、県立美術館分館は落選、SDGsに関連してRC建物の改修事例として評価が高かった

##### 2-2：支部役員会の報告

- ・協力会員の規定変更、学生会員に関して地域会規約の変更
- ・デザインレビュー-高校生レポーターの募集あり
- ・支部長の熊本地域会総会への出席は依頼済み

##### 2-3：学生会員の件

- ・北岡さん一旦退会、今後オブザーバーとして参加

3.その他 なし

4.CPD なし

5.閉会 21：00



### 熊本地域会月例会（第9回）

■日時：令和5(2023)年2月24日木曜日18：30-21：00

■場所：熊本市国際交流会館3F研修室3

■参加人数：13名

□東大森さん逝去 黙禱

□内山氏 退会

自由に決断実行できる団体、個人を尊重する団体と感じJIAへ入会。年齢を重ねここらでよかろうと退会を決意した。

#### 1.審議事項、協議事項

##### 1-1：次年度予算案、事業計画について

- ・次年度予算案、事業計画案（概ね例年通り、住宅賞実施）異議なし

##### 1-2：担当案について

- ・次年度担当案 異議なし 近未来研究特別委員会は削除

##### 1-3：住宅賞について

- ・PSも商品案内等展示
- ・熊大田中先生 審査委員長快諾
- ・日程：8/3(木)に確定 住宅賞審査講評日 公開審査 夜は懇親会
- ・応募用紙1：所属等本人の情報 応募用紙2：作品の内容
- ・審査委員は応募用紙1は見ない 応募用紙2は無記名
- ・記録をとる、必ず評価を入れる、進行は林田
- ・応募者が発表する場はない ヒアリングは削除
- ・現地確認はなし

##### 1-4：熊本地震記録誌について（原田）

- ・2/16にWeb会議 原田参加 目次の確認
- ・熊本地域会にて割当てあり 年内完成予定
- ・次回3月中旬にWeb会議

##### 1-5：会計通帳の名義について

- ・ゆうちょ口座の名義が東大森さんになっている
- ・役員が変わるごとに変えるべき（2年ごと）
- ・今後、地域会長名とする

##### 1-6：各会員の活動の共有方法について

- ・地域会内での共有方法は個人発信（会員へメール）とする
- ・ネーミング（タイトル）を今後検討（例：FAF=福岡建築ファウンデーション）

#### 2.報告事項、確認事項

##### 2-1：供花、香典の報告

- ・供花、香典、電報4,620円（事後報告）
- ・東大森さん送る会or 偲ぶ会をJIA（有志）で実施 丹伊田実行委員長、実働森下 5/27（土）併せて東大森作品展企画

##### 2-2：支部役員会の報告 なし

##### 2-3：地域会総会の件

- ・3/23(木)実施 総会後懇親会

3.その他 なし

4.CPD [自作を語る] 長野氏

5.閉会 21：00



CPD「自作を語る」長野聖二

- 日時：令和5(2023)年2月24日木曜日20：00-21：00
- 場所：熊本市国際交流会館3F研修室3
- 講師：長野 聖二氏 ((株)長野聖二建築設計處)
- 参加人数：13名

長野氏は町屋が残る熊本市中央区河原町で事務所を構えて20年以上になる。まちづくりやアート、町屋を軸とした様々な活動を精力的に行っており、長年にわたり河原町、新町・古町周辺のまちづくりに寄与し、震災復興にも大きく貢献している。

熊本の城下町の変遷を、レイヤー（各年代）の重なり、広島風お好み焼き（混ぜずに重ねている様）、金太郎飴じゃない（どこを切っても同じ断面ではない）などと表現し、これらを「都市のふところ」と呼んでいる。

事務所を構える河原町ではアート活動も盛んに行っており、最近では福祉系の活動にも力をいれている。

長野氏にとっての「作品」とは、いわゆる建築作品だけではなく、活動自体も長野氏にとっての「作品」なのだと感じた。まさに「町と共に生きる」を体現している。また、元々はアートを志していたとのことで、長野氏自身や作品から醸し出される独特の空気感のルーツも感じることができた。



熊本地域会2023年度総会

- 日時：令和5(2023)年3月24日木曜日18：00-20：00
- 場所：熊本市市民会館2F第7会議室
- 参加人数：17名（オブザーバー、来賓含む）

□総会

- ・来賓 松山支部長よりご挨拶
- ・出席者の確認 15人全員出席 総会成立
- ・資料の確認
- ・議長選出：丹伊田会員
- ・第1号議案 2022年度事業報告 林田会長より →承認
- ・第2号議案 終始決算報告 堀田会計より →承認
- ・監査報告 吉武監査 3/22に監査実施
- ・第3号議案 役員・担当（案） →承認
- ・第4号議案 2023年度事業計画（案） →承認
- ・第5号議案 収支予算（案） →承認
- ・第6号議案 地域会規則改定 →承認

□八代市厚生会館

- ・保存再生活用に関する要望 作成
- ・現状中に入れたい、利用されていない
- ・4/2見学会予定 現地に行って八代高専にてレクチャー
- ・その後に内部見学会をやりたい
- ・JIAの中で随時話し合いながらやりたい
- ・要望書、レクチャー受けてから市へ提出  
→次から次へだしていきたい、次は支部の保存再生委員会  
→4/2～10日程度を目安に提出

□住宅賞

- ・田中先生、松山支部長、堀田さん、熊日・魚住さん  
審査員出揃った
- ・提出様式はオリジナルのものをつくって支部HPにUPする
- ・過去10年とする 2013～
- ・九州支部の中の熊本地域会と表記 広報委員と相談する
- ・審査員の立場から  
配置と平面と高さのわかるもの 立面図は不要では？  
特徴を自由に表現 特筆する点を示す図面等 自由に表現
- ・審査員にも趣旨・想いを伝える  
(審査自体はバイアスはかけないように)



## 鹿児島地域会12月度役員会

12月度の地域会役員会を12/13日に開催いたしました。参加人数は9名

会議後に懇親会を行い親交を深めました。

以下会議内容

### ■協議事項

- ・次回支部役員会は2023.1.28（土）Web開催。
- ・来年度地域会予算及びスケジュール 2023/1/17までに支部提出。（統一書式にて）
- ・遊休財産の保有限度について各地域会で検討し2023.1.20に支部提出。
- ・本部理事の件
- ・2023年度建築塾は鹿児島地域会担当。
- ・2023全国大会 東海支部（常滑） 2023.11.9～11
- ・2024全国大会 九州（詳細未定だが早めの準備が必要）
- ・デザインレビュー 2023.3.11～12（九州産業大学）で決定。
- ・登録建築家の是非に関して本部で協議中である。
- ・登録建築家更新 来年2月である。
- ・阿蘇震災ミュージアム（o+h）完成見学予定（時期未定）
- ・学生会員の入会案内等を支部HPに記載、学生会員NWづくり、メリット等も案内。（学生会員は協会員枠に移行）
- ・建築家派遣、小学校、福岡で実施、各地域会でも検討の事。（補助あり）
- ・JIA 25年建築選・建築賞の現地審査報告（鱈坂、岩田、藤崎）

### ■報告事項

- 本年度スケジュールの確認。（別紙）
- 遊休財産の保有限度について。 今後3年間で遊休財産を0にする。 R5/1/20までに支部に案を提出。
- 来年度予算について。 R5/1/17までに支部提出。
- 2023年度 建築塾（鹿児島地域会開催）について
- 2/10（金） 合同例会、講演会、オープンレクチャーの内容について（マイステイズ）
- 2/11（土） 鹿大講演会・合同講評会の内容について（鱈坂）
- JIA鹿児島会賞 審査会について（水本、木元、宮崎響）
- 3/11～13 デザインレビュー（九州産業大学）について（酒井、森）

### ■その他

- ・学生会員の入会の件 支部HPにて入会案内を行う。

以上



鹿児島地域会2月度オープンレクチャー合同例会懇親会

2/10日の合同例会後にオープンレクチャーを開催いたしました。

今回は佐藤尚巳JIA会長にご登壇いただきました。

題目は「自作を語る」で同時にZoom配信も行いました。

作品の説明を交えながら、建築家の職能や公益性、JIAの今後の在り方などをわかりやすくレクチャーいただき会員からも身近に感じられ、親しみを持たれたとの感想が聞かれました。

今後は佐藤会長ではなく、尚巳ちゃんと呼んでくださいとの事でとても愉快で盛り上がった懇親会となりました。

その後、佐藤会長を交えた懇親会を行い、二次会まで長く充実した夜を過ごしました。

翌日は鯉坂会員の加世田麓や知覧武家屋敷、指宿と案内いたしました。指宿港の砂浜にもご案内し、是非JIAも関与できるようにしたいとの言葉もいただきました。

その1



集合写真



オープンレクチャー



二次会

**JIA\_Kagoshima オープン・レクチャー 2023**  
自作を語る 建築家 佐藤 尚巳

**2/10 [FRI]**  
**18:00-19:30**

公益社団法人日本建築家協会鹿児島地域会では、2020年からオープン・レクチャーをはじめました。一般の方々や学生のみならず参加を歓迎します。第8回は、建築家が自作、そして建築を語るレクチャーとして、佐藤尚巳JIA会長が登壇します。佐藤尚巳JIA会長は、1955年に東京都で生まれ、東京大学工学部建築学科を卒業後、ハーバード大学デザイン学部大学院を1988年に修了されました。1979-1986年菊竹清訓建築設計事務所所属された後、1987年にCAMBRIDGE 7 Associates (Cambridge, MA)、1988-1990年 IIM Pei and Partners (New York)、1990年 Rafael Vinoly Architects PC (New York) とアメリカで活躍され、1990-1996年ラファエルヴィニオリ建築士事務所 東京事務所 東甲国際フォーラム総括となり、東京国際フォーラムの設計監理にかけられました。1996年から株式会社佐藤尚巳建築研究所を主宰され、劇場等の建築設計に取り組んでこられています。そして2022年より日本建築家協会 (JIA) 会長に就任されました。

オープン・レクチャー会場：ホテルマイステイズ鹿児島天文館 山之口町2-7  
コロナ感染対策もあり、事前にメールで申し込みください。  
メール申込先：fujisaki@kai.bbq.jp

主催 公益社団法人 日本建築家協会鹿児島地域会



オープンレクチャー フライヤー



鹿児島地域会2月度オープンレクチャー合同例会懇親会

その2 尚巳会長を案内



城山展望所



下山会員の作品にて



城山展望所



岩崎美術館



旧猪鹿倉邸



指宿港砂浜 山田氏の説明

## 鹿児島地域会2月度合同例会

2/10日に2月度の地域会合同例会をオープンレクチャー、懇親会に先立ち開催した。

以下会議内容

### ■報告事項

- ・来年度の鹿児島地域会予算書及びスケジュール提出済（別紙）
- ・2023全国大会 東海支部（常滑） 2023.11.9～11
- ・2024全国大会 九州手をあげる。（早めの準備が必要）
- ・再来年の支部大会は宮崎予定。
- ・2023年度建築塾は鹿児島地域会担当。
- ・2023年度JIA九州建築新人賞（U49） 2/15～フライヤーコンペ開始（U30） 作品応募受付7月～
- ・持ち出し役員会9月長崎予定。
- ・JIA入会書式変更（正、シニア、Jr、協力会全て）PDF提出、押印無しなど。

JIA 25年建築選・建築賞の報告（岩田）

### ■協議事項

本年度スケジュールの確認。（別紙）

2/11鹿大 講演会・合同講評会 西沢立衛（鯉坂）

2/13～JIA鹿児島会賞審査 鹿大、第一工大、県短 各大学と調整（水本、木元、宮崎響）

3/11～13 DR 九州産業大学（酒井）

3/18 鯉坂先生の退官講演予定

3/28（火）地域会例会

4/25（火）2023年度地域会総会 松山支部長出席

2023年度 建築塾（鹿児島地域会開）について

時期：6月から9月予定（9月は長崎と調整）

指宿の件

2/19（日）指宿港海岸整備WS参加予定（JIAより田島、川津、下山、宮崎）

以上





鹿児島大学卒業設計講評会

2/11日の鹿児島大学卒業設計講評会に参加いたしました。

ゲストクリティークは西沢立衛氏で「自作について」の題目にて講演もいただきました。

終了後に懇親会及び二次会を行い西沢氏との対面での会話は特に若手会員にとって刺激的で貴重な体験となったようです。



懇親会集合写真



二次会集合写真

2023.02.11.Sat.  
鹿児島大学建築学科棟

鹿児島大学工学部建築学科  
卒業設計講評会  
ゲストクリティーク：西沢立衛  
13:30~16:00  
@ 01 教室

座談会（西沢立衛＋学生）  
17:45~18:30  
@ 2 階製図室



フライヤー

西沢立衛講演会  
「自作について」  
16:15~17:45  
@ 01 教室

西沢立衛 Ryue Nishizawa

- 1966 - 東京都生まれ
- 1994 - 鹿児島大学大学院修士課程修了
- 1995 - 建築家・設計事務所設立
- 1999 - 建築家・SANAA 設立
- 1997 - 高次公衆建築設計事務所設立
- 2011 - 鹿児島大学大学院修士課程修了
- 2015 - 「アトリエ・モノ」
- 2019 - 鹿児島大学大学院修士課程修了
- 2022 - 鹿児島大学大学院修士課程修了



若手との対話



指宿港海岸WS JIA講演会

2/19日に指宿港海岸WSに田島、川津、下山、宮崎の4名でJIAとして参加いたしました。参加者は市民55名、市民協議会、国、県市など80名ほどの規模でした。

市の依頼によりJIAにて建築家視点での指宿港海岸と題して講演を行いこれからのまちづくりにJIAが関わる事の意味を講演いたしました。これを機に引き続き、まちづくりに協力できたらとの思いです。

## 第30回 指宿港海岸ワークショップ 参加者募集!!

**日時** 令和5年2月19日(日)  
13:30開会 (受付13:00~)

**場所** 指宿市役所北側別館(旧中央公民館)2F 講堂

**テーマ** ○突堤区間の景観及び海岸利用について  
○建築家視点での指宿港海岸について(講演)

指宿港海岸保全推進協議会では「**指宿**」は海から変わる・・・をコンセプトに指宿港海岸の整備について 様々なワークショップを開催しています。  
指宿港海岸でやってみたいことはありませんか?  
より良い海岸づくりを目指すために 皆さんご参加をお待ちしております。

さりとて

氏名		年齢	
住所		職業・職種	

**指宿港海岸整備完成構想図**

まさ  
“指宿”は  
海から変わる...

指宿港海岸保全推進協議会 | 指宿市  
www.jia-shimosuwayama.com



指宿港砂浜再生現地にて



JIAによる講演



JIAによる講演







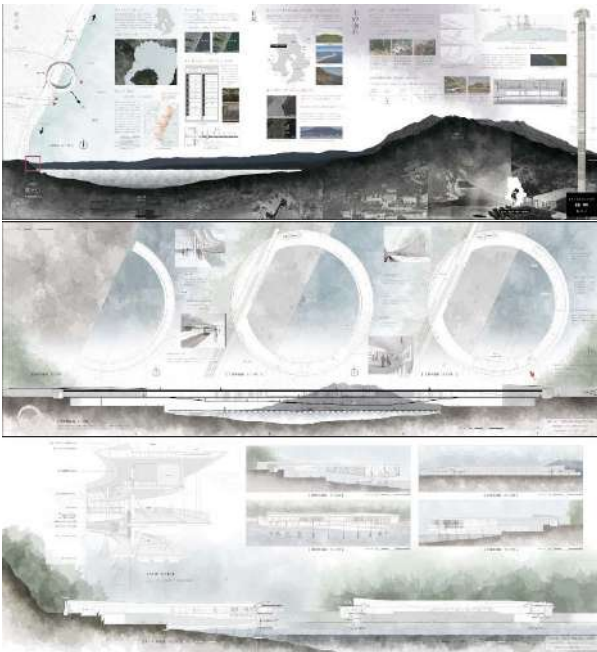
### JIA鹿児島会賞審査 3/2、3/11

鹿児島地域会では毎年県内建築系大学の卒業設計に対し、地域会で独自に設けたJIA鹿児島会賞を設けて表彰を行っています。  
 本年は鹿児島大学、第一工科大学、鹿児島県立短期大学の卒業設計に対し、鹿児島地域会会員による審査を行い、金賞×1、銀賞×2、銅賞×2、奨励賞×1の計6作品を選定し表彰いたしました。



金賞盾

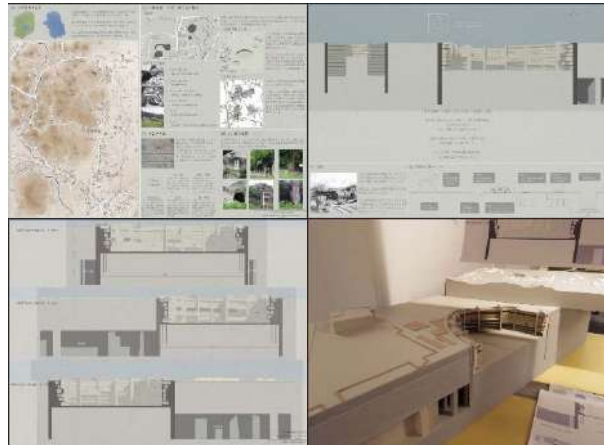
金賞作品



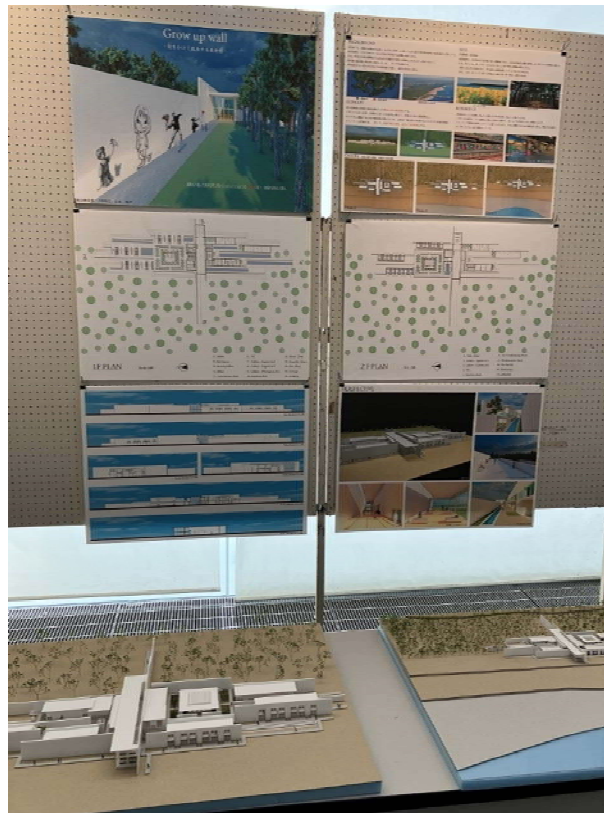
金賞作品



審査状況



銀賞作品



銀賞作品



審査状況



## 編集後記

今年の桜は例年より長く春の訪れを感じさせてくれます。ようやく普通の生活に戻ることができることを祝福しているようにも感じます。

年度末のお忙しい時期にも関わらず、執筆を快く受けていただいた皆様、まんゆうきに登壇いただいた若手建築家の皆様、開催準備にご尽力いただいた宮崎地域会の皆様にご場を借りて厚く御礼申し上げます。田島さんに2024年に九州支部主催で開催予定の全国大会にむけて執筆いただきました。大変な準備の先には楽しい思い出や絆が深まることを教えていただきました。過去2回の実績を学び支部全体で力を合わせ、最高のおもてなしできればと思います。

「師・磯崎新を悼む」を西岡さんに執筆いただきました。文中より磯崎新氏の思考、お人柄、生き様が垣間見え、建築家として進むべき道を示していただいています。ご冥福をお祈りいたします。今回で7回目になる「まんゆうき」は宮崎で活躍されている2名に登壇いただき1月19日に開催されました。優雅なホテルの一室での開催で今までにない緊張感がありました。支部長や来場者とのクリティークでのやり取りは今後の建築家としての生き方の糧になっていくことと思います。会場の様子は宮崎地域会長の久壽米木さんに執筆いただきました。「おしえて」では福岡大学趙翔教授に執筆いただきました。学生は実験やコンピュータシミュレーション、実務経験、コンペ等幅広い分野を横断することで設計をすすめる上での根拠を学べる環境を大変羨ましく思います。JIAの国際交流活動を水本さんに執筆いただきました。幅広い活動内容を知り、考えるより感じたままに交流・参加することで視野が広がり、思考が深まる大切さを教えていただきました。国境の島対馬の現状や将来、建築様式、建設業界について鼻崎さんに紹介いただきました。人口減少時代に入り、地域や業界では様々な問題が山積みですが時代の流れに柔軟に対応しながら魅力ある建築業界を次の世代に繋いでいけたらと思います。河野さんに約20年前の宮崎地域会の交流会の思い出を執筆いただきました。文書と写真から海や緑の自然の中で仕事も忘れて心身楽しまれている様子が伺えます。松本さんに「子どもエキスポin壱岐」を紹介いただきました。木造4階建てビルを通じて地球環境を子どもたちに伝える素晴らしい取り組みと思います。未来の建築家が今回の参加者の中にも含まれているはず。池浦さんに28回目を迎える「DR2022」、重田さんに「高校生レポート」、原さんには実行委員長からの視点で活動を報告していただきました。4年ぶりの完全対面・懇親会開催で学生の熱量を感じることができ、クリティークとの議論も熱く行われました。参加者にとって大変貴重な経験になったことと思います。引き継ぎ資料がなく、運営経験者がいないながらも素晴らしいオペレーションでした。「わさもん」では新入会員の椎橋さんにご自身の作品紹介も兼ねて自己紹介を執筆していただきました。これからよろしく願いいたします。大分地域会協会の衛藤さん、濱田さんに協力会つうしんを執筆いただきました。いつもサポートいただきありがとうございます。

来年度もアップデートを行いながら魅力ある誌面づくりに努めていきますので何卒よろしく願いいたします。

広報副委員長 有吉兼次

